

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2014 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 28 弾～

2014 年7月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

目 次

■調査概要 1

■調査結果 5

I この夏のボーナス

1. この夏のボーナスの手取り額.....	6
2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較.....	8
3. ボーナスの今後の見通し.....	9
4. 今回のボーナスの主な使い道.....	11
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額.....	15
6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額.....	18
7. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると.....	22

II わが家の家計と金融資産

1. 家計についての現状認識.....	24
2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出.....	26
3. 今後の家計の見通し.....	27
4. 世帯の金融資産の増減.....	29

III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況.....	33
2. 『夫に内緒の資産』の保有額.....	35
3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的.....	37
4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか.....	38
5. 『夫に内緒の資産』の増減.....	40
6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について.....	43
7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し.....	46

IV 主婦の財布の中身

1. 財布にふだん現金をいくらぐらい入れているか.....	48
2. 財布にお金を補填する時はどんな時か.....	50
3. 現在、現金の入った財布（小銭入れを含む）をいくつ持っているか.....	53
4. 現在、夫の小遣いは月いくらぐらいか.....	55
5. 4月（消費税増税）以降、夫の小遣いに変化はあったか.....	57

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

28回目となる今回は、2014年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦500人

<サンプル配分>

合計	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成26年6月6日（金）～6月11日（水）

(4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・今年の夏のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・家計の中で削りたくない支出
- ・世帯の金融資産の増減
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・主婦の財布の中身について
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位=%）

F1. 妻の年齢

(平均: 39.7 歳)

サンプル数	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳
500	19	106	60	65	64	61	88	37
100.0	3.8	21.2	12.0	13.0	12.8	12.2	17.6	7.4

F2. 妻の職業の有無

サンプル数	正規有職	パート	専業主婦
500	130	107	263
100.0	26.0	21.4	52.6

F3. 夫の年代

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳以上
500	76	144	143	137
100.0	15.2	28.8	28.6	27.4

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職なし	係長・主任クラス	課長クラス	部長クラス以上
500	202	131	96	71
100.0	40.4	26.2	19.2	14.2

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・農林・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス業	運輸・情報通信業	商業	金融・不動産・サービス業
500	6	44	160	34	53	39	164
100.0	1.2	8.8	32.0	6.8	10.6	7.8	32.8

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦のみ	夫婦と子	3世代同居(4世代同居を含む)	親夫婦と子夫婦・自分たち夫婦と親	その他
500	151	290	44	9	6
100.0	30.2	58.0	8.8	1.8	1.2

F7. 扶養中の子どもはいるか

サンプル数	いる	いない
500	298	202
100.0	59.6	40.4

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て 持ち家	一戸建て 借家	分譲 集合住宅	賃貸 集合住宅	社宅・ 寮
500	216	19	104	137	24
100.0	43.2	3.8	20.8	27.4	4.8

F9. 現在住宅ローンがあるか

サンプル数	ある	ない
500	205	295
100.0	41.0	59.0

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	53	139	108	80	120
100.0	10.6	27.8	21.6	16.0	24.0

F11. 居住地区

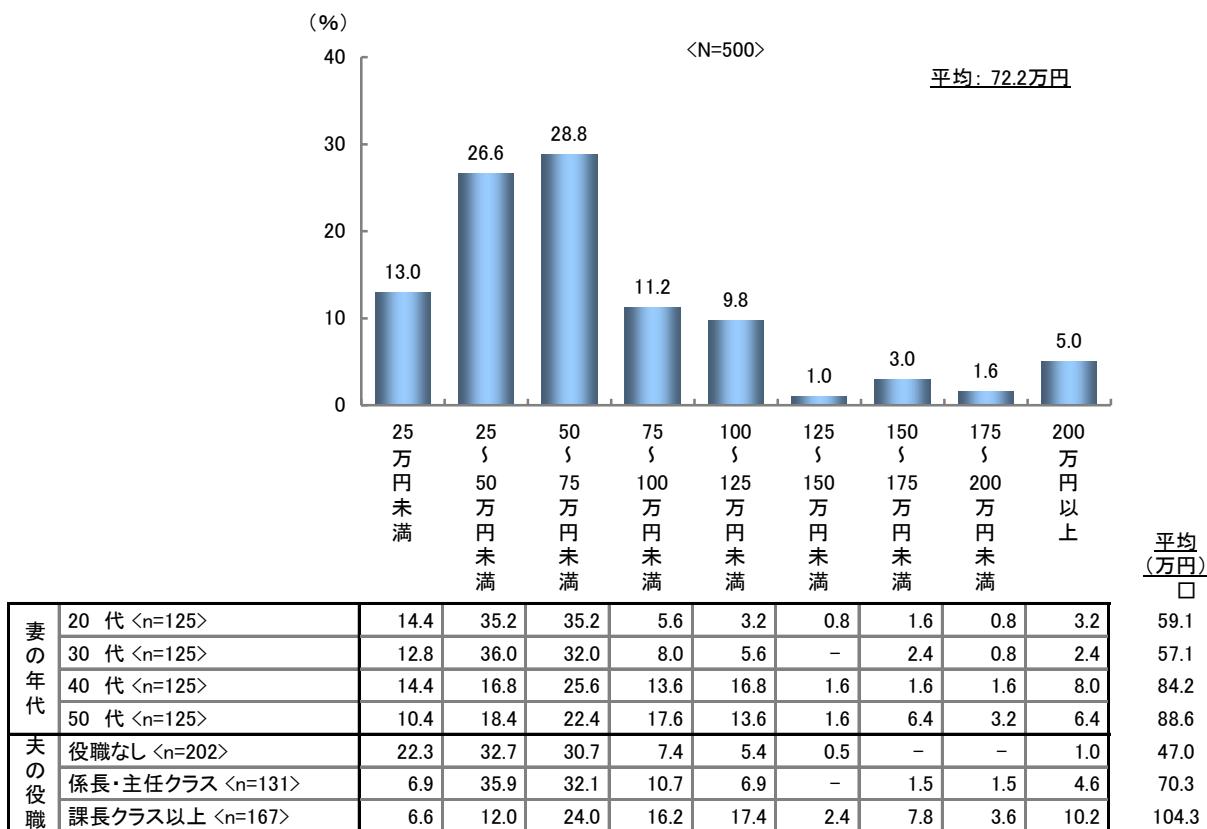
サンプル数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
500	31	16	244	81	78	17	8	25
100.0	6.2	3.2	48.8	16.2	15.6	3.4	1.6	5.0

調查結果

1. この夏のボーナスの手取り額

この夏のボーナス平均受給額(手取り)は「72.2 万円」で、昨夏(69.9 万円)よりも2万円強増えている。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



※『この夏のボーナス』とは 2014 年夏に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

夫が受給したこの夏のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。

「50~75 万円未満」(28.8%)、「25~50 万円未満」(26.6%) がともに2割台で多く、両者を合わせた “25~75 万円未満” が半数以上 (55.4%) を占めています。以下「25 万円未満」(13.0%)、「75~100 万円未満」(11.2%)、「100~125 万円未満」(9.8%) が続き、平均は「72.2 万円」となっています。

- ・妻の年代別に受給額の平均をみると、年代が上の人ほど受給額も多くなっています。その額は、《40 代》(84.2 万円)、《50 代》(88.6 万円) が “80 万円台” なのに対し、《20 代》(59.1 万円)、《30 代》(57.1 万円) では “50 万円台” と、“40 歳” を境に大きな差が生じています。
- ・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(47.0 万円) から 《係長・

主任クラス》(70.3万円)になると20万円以上増え、《課長クラス以上》(104.3万円)になるとさらに30万円以上増えています。

■昨夏の調査結果との比較■

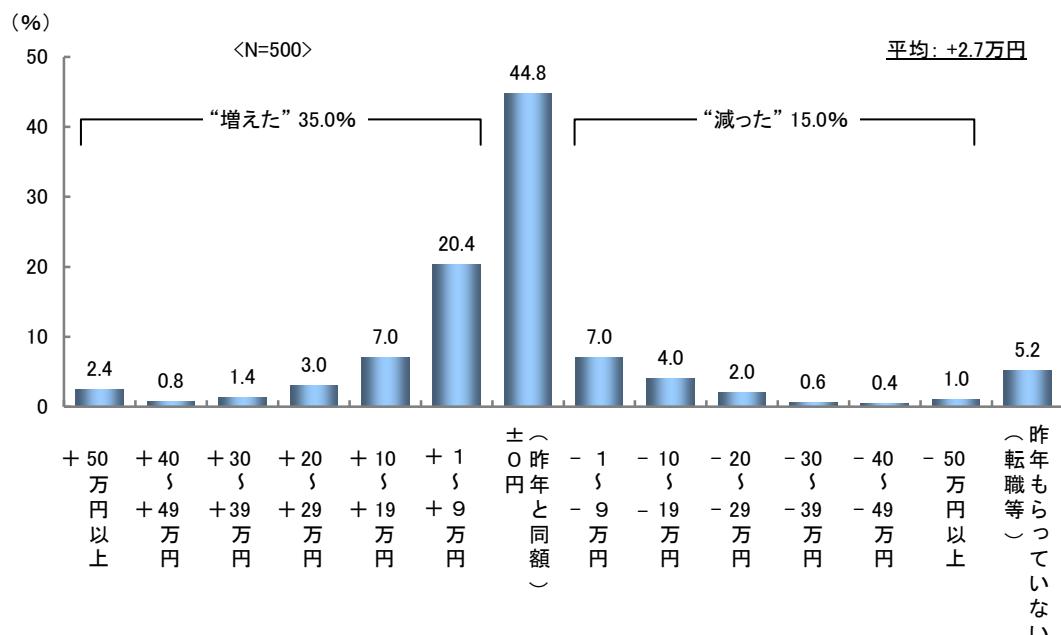
平均額は「69.9万円」→「72.2万円」と、2万円強増加しています。昨年度も一昨年度に比べ、「61.1万円」→「69.9万円」とかなり増えており、アベノミクスの影響なのか、増加傾向が継続しています。また、70万円台に達したのは、2008年以来、6年ぶりのことです。

2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較

“増えた”(35.0%)の方が“減った”(15.0%)を 20 ポイントも上回る。

※“増えた”は、「+1~9 万円」から「+50 万円以上」の合計を表します。“減った”は、「-1~9 万円」から「-50 万円以上」の合計を表します。

図 2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較



妻の年代	20 代 <n=125>	0.8	0.8	0.8	3.2	9.6	25.6	45.6	6.4	1.6	-	-	-	0.8	4.8
	30 代 <n=125>	2.4	0.8	-	4.8	4.8	20.0	48.0	5.6	4.0	0.8	-	-	0.8	8.0
	40 代 <n=125>	3.2	-	4.0	4.0	6.4	20.0	40.0	6.4	4.0	3.2	0.8	0.8	2.4	4.8
	50 代 <n=125>	3.2	1.6	0.8	-	7.2	16.0	45.6	9.6	6.4	4.0	1.6	0.8	-	3.2
	夫の役職	役職なし <n=202>	0.5	-	0.5	2.0	5.4	18.3	53.5	7.4	2.5	-	0.5	-	-
夫の役職	係長・主任クラス <n=131>	2.3	0.8	2.3	3.1	9.9	22.9	35.9	10.7	4.6	0.8	-	1.5	0.8	4.6
	課長クラス以上 <n=167>	4.8	1.8	1.8	4.2	6.6	21.0	41.3	3.6	5.4	5.4	1.2	-	2.4	0.6

次に、昨年夏と比べてこの夏のボーナスの増減をみると、「± 0 円 (昨年と同額)」(44.8%) も相当数みられますが、変動があった人では“増えた”(35.0%) の方が“減った”(15.0%) よりもはるかに多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、“増えた”割合は《20 代》(40.8%) で最も高く、“減った”(8.8%) はわずかとなっていますが、《50 代》では“増えた”(28.8%) と“減った”(22.4%) の差がかなり小さくなっています。
- ・夫の役職別にみると、“増えた”という割合は《係長・主任クラス》(41.2%)、《課長クラス以上》(40.1%) に比べ、《役職なし》(26.7%) の人では 10 ポイント以上低い割合にとどまっています。

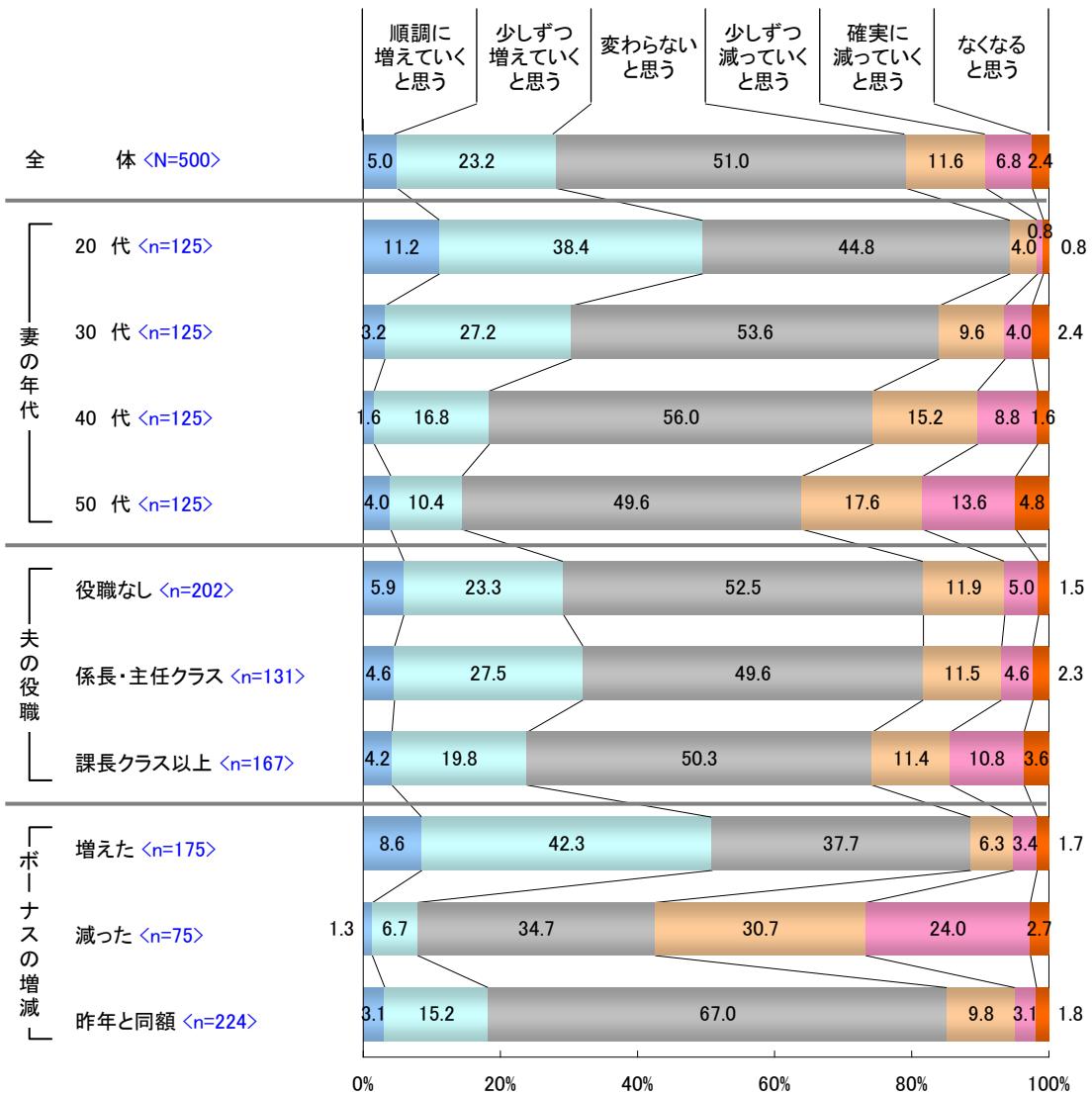
■昨夏の調査結果との比較■

“減った”(22.6%→15.0%) が減り、“同額”(36.6%→44.8%) が増えています。

3. ボーナスの今後の見通し

「変わらないと思う」(51.0%)が半数を超えており、「増えていくと思う」(28.2%)と明るい見通しの方が、「減っていく+なくなると思う」(20.8%)よりもやや多い。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いてみたところ、「変わらないと思う」(51.0%)が半数を超えていましたが、「順調に増えていくと思う」(5.0%)、「少しずつ増えていくと思う」(23.2%)を合わせた“増えていくと思う”(28.2%)という見通しの方が、「少しずつ減っていくと思う」(11.6%)、「確実に減っていくと思う」(6.8%)、「なくなると思う」(2.4%)を合わせた“減っていく+なくなると思う”(20.8%)という見通しよりもやや多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う”割合は高くなっています、《20 代》ではほぼ半数(49.6%)に達しているのに対し、《40 代》(18.4%)、《50 代》(14.4%)では1割台にとどまり、“減っていく+なくなる”(《40 代》25.6%、《50 代》36.0%)という方が多くなっています。

- ・夫の役職別にみると、“増えていくと思う”割合が最も高いのは《係長・主任クラス》(32.1%)、最も低いのは《課長クラス以上》(24.0%)ですが、あまり大きな差ではありません。
- ・前述した今夏のボーナスの増減別にみると、《増えた》人の約半数(50.9%)は“増えていく”と明るい見通しを持っているのに対し、《減った》人では“減っていく+なくなる”(57.3%)という方が半数を超えており、“増えていく”(8.0%)という見通しの人はごくわずかとなっています。また、《昨年と同額》という人では、今後も「変わらないと思う」(67.0%)という見通しが多くなっています。

■昨夏の調査結果との比較■

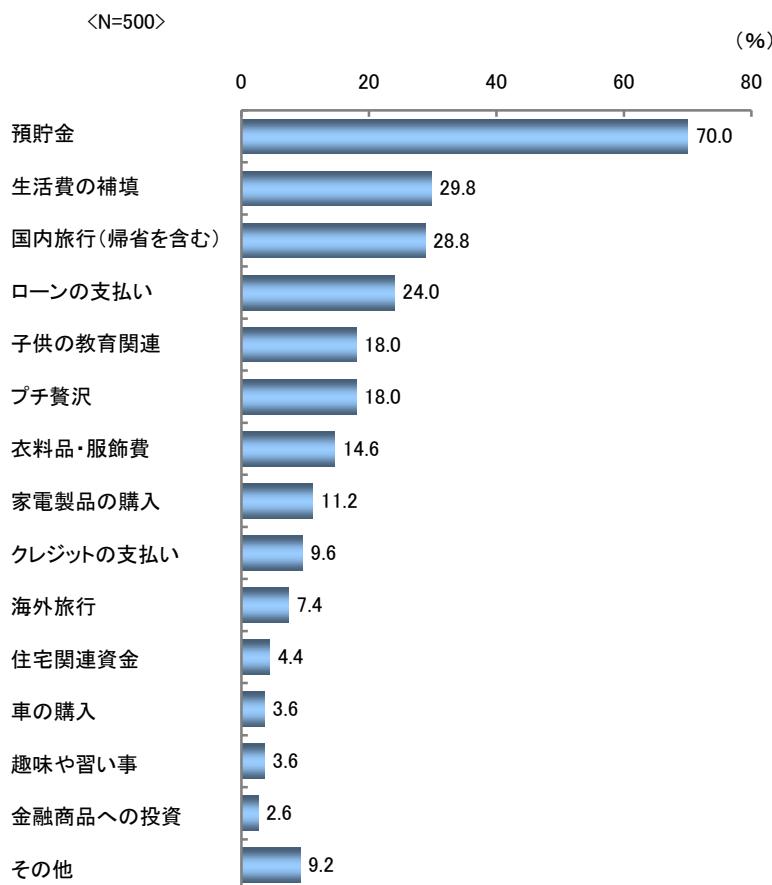
“増えていく”(29.2%→28.2%)の割合はほぼ前回並みですが、「変わらないと思う」(45.2%→51.0%)が若干増え、“減っていく+なくなる”(25.6%→20.8%)が若干減っており、悲観的な見通しが減少傾向にあります。

4. 今回のボーナスの主な使い道

昨夏と同様「預貯金」(70.0%)が群を抜いて多いが、「生活費の補填」(40.2%→29.8%)や「ローンの支払い」(31.0%→24.0%)は減ってきている。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」が4割強(44.4%)を占める。

図 4. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(70.0%) が群を抜いて多くなっており、そのほか「生活費の補填」(29.8%)、「ローンの支払い」(24.0%) も多く、“将来への備え”や“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。そのほかでは、「国内旅行(帰省を含む)」(28.8%)、「子供の教育関連」(18.0%)、「チラシ」(18.0%)、「衣料品・服飾費」(14.6%)、「家電製品の購入」(11.2%) などがあげられています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

(%)

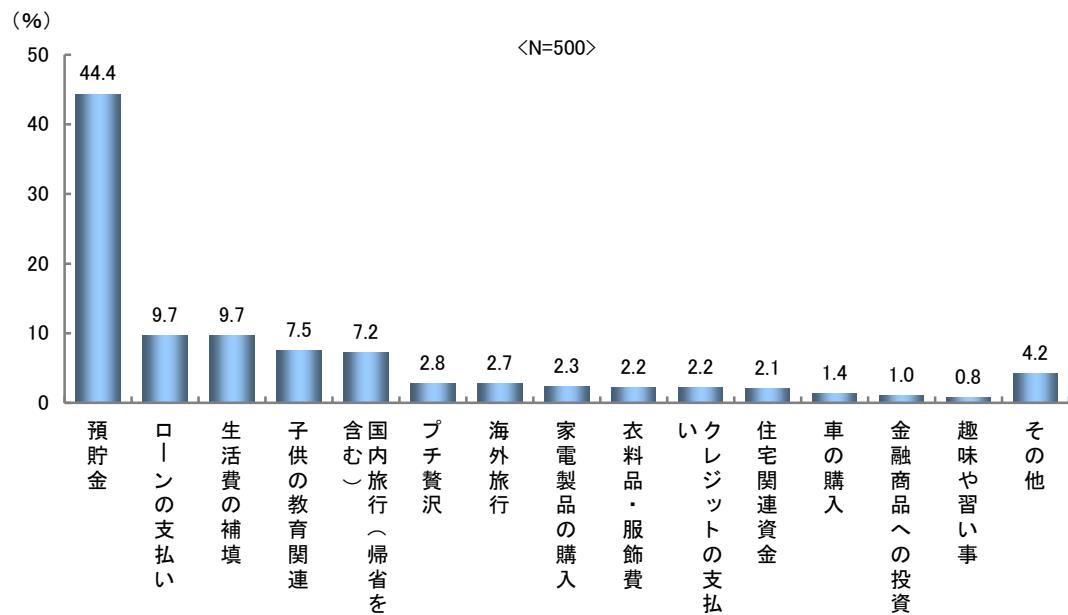
	サンプル数	預貯金	生活費の補填	含む 国内旅行 ～帰省を	ローンの支払い	子供の教育関連	ブチ贅沢	衣料品・服飾費	家電製品の購入	クレジットの支払	海外旅行	住宅関連資金	車の購入	趣味や習い事	金融商品への投資	その他	
全 体		500	70.0	29.8	28.8	24.0	18.0	18.0	14.6	11.2	9.6	7.4	4.4	3.6	3.6	2.6	9.2
妻の年代	20代	125	80.0	25.6	25.6	15.2	8.0	19.2	9.6	8.8	4.8	4.8	4.8	2.4	4.8	1.6	7.2
	30代	125	68.0	31.2	25.6	28.8	15.2	19.2	14.4	10.4	5.6	7.2	3.2	4.8	1.6	0.8	6.4
	40代	125	69.6	30.4	36.0	24.0	29.6	15.2	21.6	10.4	12.8	8.0	5.6	4.0	5.6	1.6	10.4
	50代	125	62.4	32.0	28.0	28.0	19.2	18.4	12.8	15.2	15.2	9.6	4.0	3.2	2.4	6.4	12.8
子供	いる	298	68.5	32.2	30.2	25.8	27.5	15.4	13.8	8.7	9.7	6.7	4.0	4.0	4.0	2.3	6.7
	いない	202	72.3	26.2	26.7	21.3	4.0	21.8	15.8	14.9	9.4	8.4	5.0	3.0	3.0	3.0	12.9
ローン	ある	205	62.9	31.7	30.2	45.4	22.0	16.6	12.2	8.3	12.7	4.9	5.4	2.4	3.9	2.0	7.8
	ない	295	74.9	28.5	27.8	9.2	15.3	19.0	16.3	13.2	7.5	9.2	3.7	4.4	3.4	3.1	10.2
世帯年収	600万円未満	192	69.3	35.9	28.6	22.4	16.7	19.8	15.1	8.9	8.3	3.1	4.2	2.6	3.1	0.5	8.3
	600～800万円未満	108	67.6	37.0	33.3	28.7	18.5	18.5	12.0	12.0	12.0	6.5	5.6	2.8	7.4	0.9	8.3
	800～1000万円未満	80	71.3	27.5	26.3	25.0	21.3	20.0	18.8	12.5	12.5	8.8	2.5	5.0	5.0	2.5	7.5
	1000万円以上	120	72.5	15.0	26.7	21.7	17.5	13.3	13.3	13.3	7.5	14.2	5.0	5.0	—	7.5	12.5
受給額	50万円未満	198	65.2	36.4	27.8	19.2	14.6	18.2	14.6	6.6	7.6	2.5	4.5	2.0	3.5	0.5	8.1
	50～100万円未満	200	72.0	29.0	28.0	28.5	17.5	18.5	14.0	13.5	10.0	8.5	4.5	3.5	2.5	2.5	7.0
	100万円以上	102	75.5	18.6	32.4	24.5	25.5	16.7	15.7	15.7	12.7	14.7	3.9	6.9	5.9	6.9	15.7

- ・妻の年代別にみると、いずれも「預貯金」が群を抜いていますが、特に《20代》(80.0%)で高率なのが目立ちます。そのほか、「子供の教育関連」は《40代》(29.6%)で高い、「クレジットの支払い」は年齢が上がるほど高い、といった違いがみられます。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、扶養中の子供が《いる》人では「子供の教育関連」(27.5%)の割合が高いのが目立ちます。
- ・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ある》人では半数近くが「ローンの支払い」(45.4%)をあげています。
- ・世帯年収別でみると、世帯年収に関係なく「預貯金」がトップですが、その割合は世帯年収が多い世帯ほど高くなる傾向にあります。また、「生活費の補填」は年収の少ない層ほど高い割合となっており、年収《600万円未満》(35.9%)、《600～800万円未満》(37.0%)の人では《1,000万円以上》(15.0%)の人の2倍以上の割合に達しています。一方、「海外旅行」は、年収が高い人ほど多い傾向となっています。
- ・ボーナス受給額別にみると、やはりいずれも「預貯金」が最も多くなっていますが、その割合は受給額が多い人ほど高く、また「子供の教育関連」や「海外旅行」なども同様の傾向がみられます。一方、受給額が少ない人ほど「生活費の補填」をあげる割合が高くなっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「預貯金」(70.0%→70.0%)が同率を維持して断然トップとなっていますが、「生活費の補填」(40.2%→29.8%)や「ローンの支払い」(31.0%→24.0%)などは減っています。

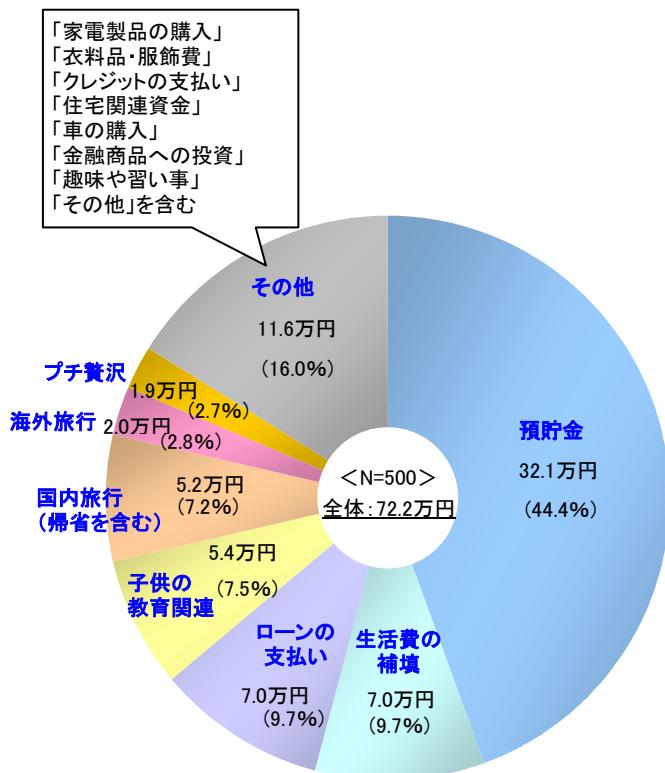
図 5. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値）



次に、夏のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を100%に換算したもの）。

割合の平均値（100%換算）をみると、「預貯金」（44.4%）が圧倒的に高く、ボーナス総額の半分近くが預貯金に回されている計算になります。そのほかの項目はいずれも1割に届きませんが、「ローンの支払い」（9.7%）、「生活費の補填」（9.7%）、「子供の教育関連」（7.5%）、「国内旅行（帰省を含む）」（7.2%）などの順となっています。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合(この夏のボーナス平均手取額 72.2 万円を総額とし、金額に換算)



参考までに、今回の夏のボーナスの平均手取額「72.2 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかみると、トップの「預貯金」は「32.1 万円」となりました。

※例えば「国内旅行（帰省を含む）」は「5.2 万円」と、実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でならすと、一家庭当たり「5.2 万円」に当たることを示しています。

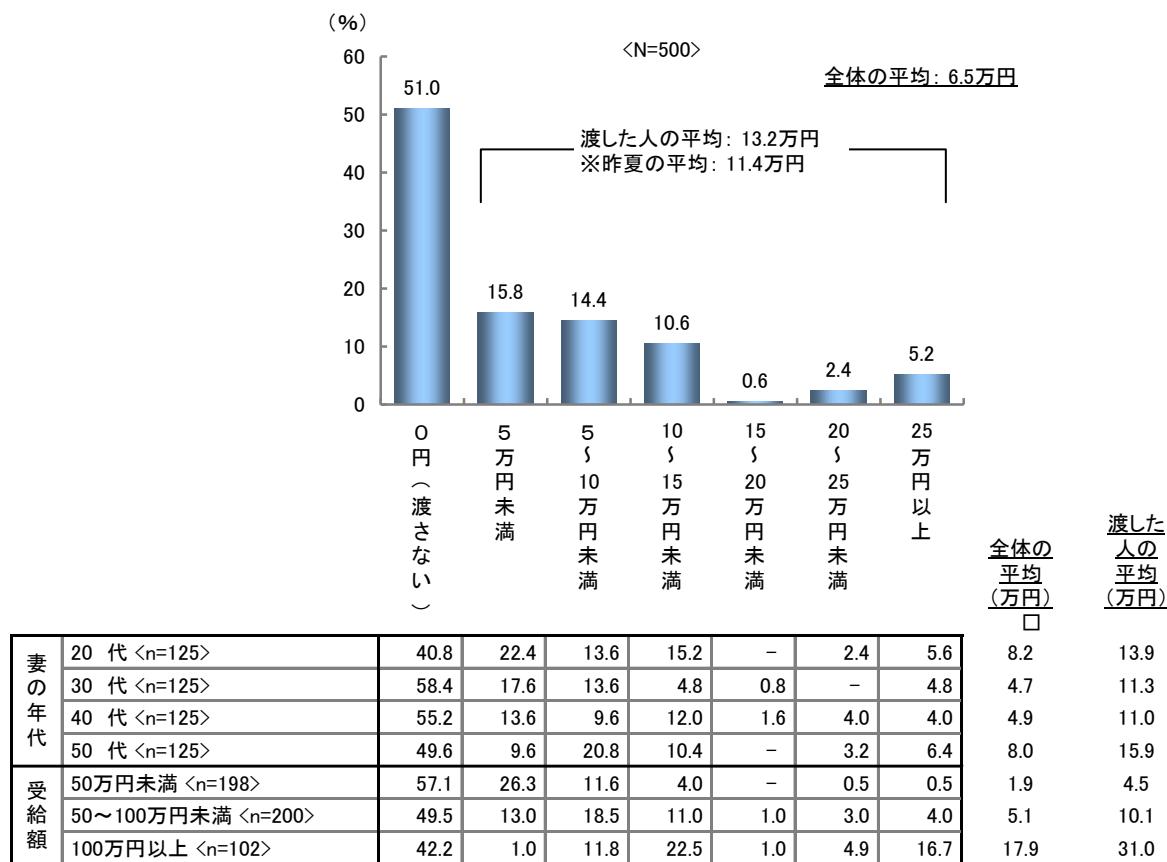
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円(渡さない)」(51.0%)人が半数強を占める。

“渡した(渡そうと思っている)”人(49.0%)では、「5万円未満」(15.8%)、「5~10万円未満」(14.4%)、「10~15万円未満」(10.6%)などの順で、“渡した(渡そうと思っている)”人の平均金額は「13.2万円」。

◆渡さない理由は、「必要な時にはその都度渡しているので」(31.8%)と「毎月お小遣いを渡しているので」(31.4%)と“夫のお小遣いのルール”が決まっているからという理由が多く、以下「ボーナスの使い道が既に決まっているので」(20.0%)、「もらったボーナスが少ないので」(18.4%)、「将来に備えることの方が大事なので」(17.6%)などの順。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞いてみました。

「5万円未満」(15.8%)、「5~10万円未満」(14.4%)、「10~15万円未満」(10.6%)など、夫に小遣いとして“渡した、あるいは渡そうと思っている”人は合わせて49.0%と約半数で、「0円(渡さない)」(51.0%)とほぼ二分された結果です。平均は、「0円(渡さない)」人を含めた全体でみると「6.5万円」、“渡した(渡そうと思う)”人に限ってみると「13.2万円」です。

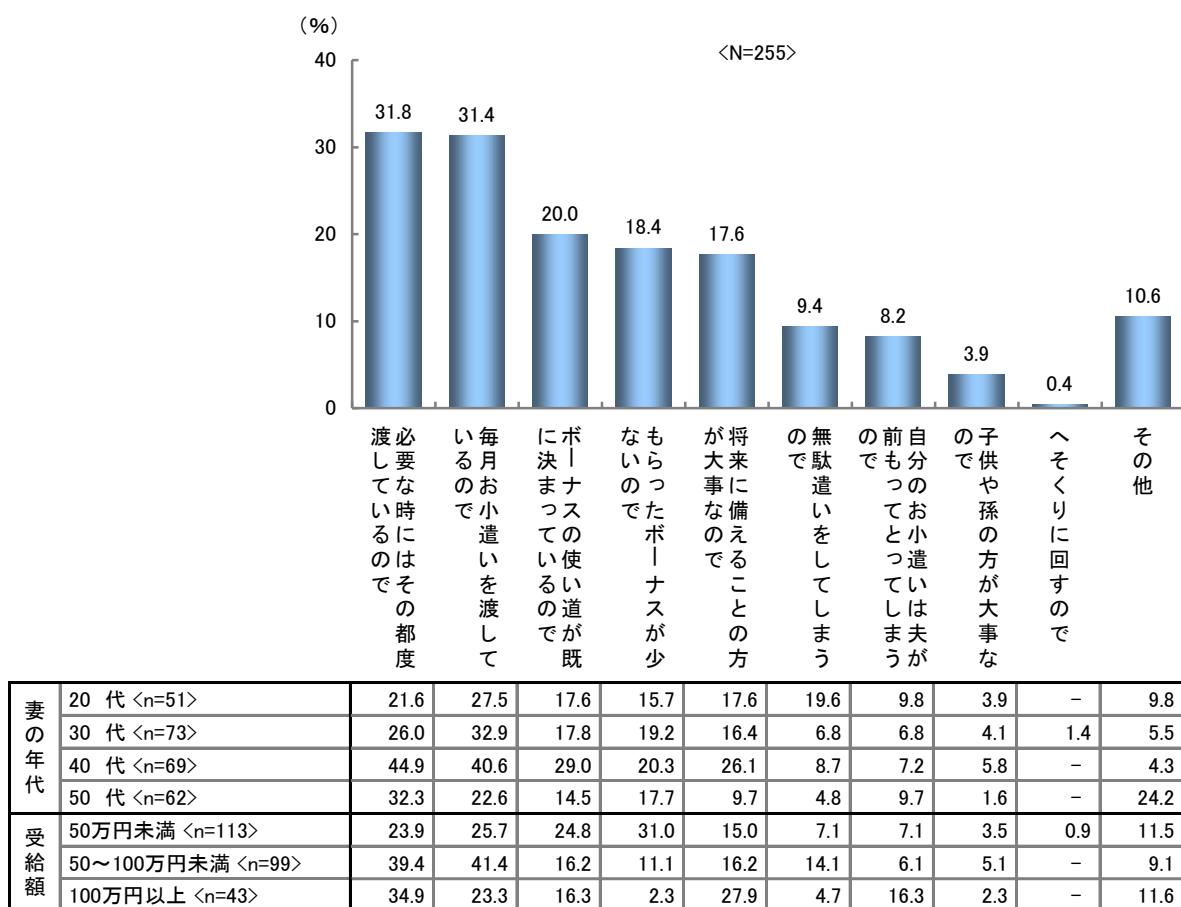
- ・妻の年代別に“渡した(渡そうと思う)”人の平均金額をみると、最も高いのは《50代》(15.9万円)、次いで《20代》(13.9万円)が続いています。
- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が多いほど“渡した(渡そうと思う)”割合が高く、その渡した平均

金額も多くなっています。受給額《50万円未満》の人では“渡した（渡そうと思う）”割合が42.9%、平均が「4.5万円」であるのに対し、《100万円以上》の人では、割合が57.8%、平均が「31.0万円」と大きな差がみられます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“渡した（渡そうと思う）”の割合は47.0%→49.0%、渡した額の平均も11.4万円→13.2万円といずれもやや増えています。先にみたように支給されたボーナスの総額が増えたことにともない、夫にも恩恵があったようです。

図8. 「渡さない」理由（複数回答）



では、なぜボーナスの中から夫に小遣いを渡さないのでしょうか。

その理由をみると、「必要な時にはその都度渡しているので」(31.8%)と「毎月お小遣いを渡しているので」(31.4%)がともに3割強を占めて多く、“夫のお小遣いのルール”が決まっているからというのが最も大きな理由のようです。以下、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」(20.0%)、「もらったボーナスが少ないので」(18.4%)、「将来に備えることの方が大事なので」(17.6%)などが続いています。

- ・妻の年代別にみると、《40代》で「必要な時にはその都度渡しているので」(44.9%)、「毎月お小遣いを渡しているので」(40.6%)、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」(29.0%)、「将来に備えることの方が大事なので」(26.1%)などが高い割合となっています。また、「無駄遣いをしてしまうので」は《20代》(19.6%)で多いのが目立ちます。

- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が少ない人ほど、当然の結果ですが「もらったボーナスが少ないので」の割合が高く、《50万円未満》(31.0%)の人では3割を超えていました。《100万円以上》の人になるとかなり少なくなりますが、それでも2.3%の人は「もらったボーナスが少ないので」を理由としてあげています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、1位の項目「必要な時にはその都度渡しているので」(37.0%→31.8%)がやや減り、2位の項目の「毎月お小遣いを渡しているので」(26.8%→31.4%)がやや増えた結果、両者の割合が今回はほぼ等しくなっています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

＜芸能界＞では「タモリ」(10件)、＜スポーツ界＞では「浅田真央」(38件)、＜その他の分野＞では「自分」(3件)がそれぞれトップ。

◆渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「田中将大」(18件:2,401万円)、「錦織圭」(6件:1,933万円)、「嵐」(9件:1,513万円)がトップ3。

2014年前半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（芸能界）

芸能界		
順位		件数
1	タモリ	10
2	嵐	9
3	有吉弘行	7
4	坂上忍	6
5	AKB48	4
6	明石家さんま	3
	イモトアヤコ	3
	堺雅人	3
	神田沙也加	3
	大島優子	3
	その他	44

平均金額 (万円)	最高額 (万円)
1,211	10,000
1,513	10,000
93	100
88	100
60	100
100	100
93	150
100	100
407	1,000
47	100
455	5,000

まず＜芸能界＞では、長くテレビ番組「笑っていいとも！」の司会を務め、先頃番組が終了した「タモリ」(10件)がトップとなっています。以下、「嵐」(9件)、「有吉弘行」(7件)、「坂上忍」(6件)、「AKB48」(4件)など、コメディアンやアイドルが多くあげられています。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、得票数2位の「嵐」(1,513万円)と1位の「タモリ」(1,211万円)が1,000万円以上と特に高くなっています。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界		
順位		件数
1	浅田真央	38
2	羽生結弦	20
3	田中将大	18
4	本田圭佑	9
5	イチロー	6
6	錦織圭	6
7	サッカー日本女子代表	4
8	サッカー日本男子代表	3
	大久保嘉人	3
	白鵬	3
	その他	31

	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
□		
551	10,000	
247	1,000	
2,401	10,000	
210	1,000	
205	1,000	
1,933	10,000	
1,313	5,000	
433	1,000	
177	300	
83	100	
386	5,000	

＜スポーツ界＞では、先のソチ五輪で日本に感動を与えた「浅田真央」（38 件）、「羽生結弦」（20 件）が 1 位、2 位を占めています。以下、野球のメジャーリーグで活躍している「田中将大」（18 件）、サッカーの「本田圭佑」（9 件）などが続いています。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、得票数 1 位の「浅田真央」（551 万円）、2 位の「羽生結弦」（247 万円）よりも「田中将大」（2,401 万円）や「錦織圭」（1,933 万円）、「サッカー日本女子代表」（1,313 万円）の方がかなり多くなっています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他		
順位		件数
1	自分	3
	ふなっしー	3
	その他	29

	平均金額 (万円)	最高額 (万円)
□		
11	20	
100	200	
1,503	10,000	

＜その他の分野＞では、回答数がかなり少ないのですが、「自分」（3 件）、「ふなっしー」（3 件）などとなっています。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、「自分」に対しては「11 万円」とかなり控えめです。「ふなっしー」には「100 万円」となっています。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	浅田真央	38
2	羽生結弦	20
3	田中将大	18
4	タモリ	10
5	嵐	9
	本田圭佑	9
7	有吉弘行	7
8	坂上忍	6
	イチロー	6
	錦織圭	6

順位		平均金額（万円）
1	田中将大	2,401
2	錦織圭	1,933
3	嵐	1,513
4	サッカー日本女子代表	1,313
5	タモリ	1,211
6	浅田真央	551
7	サッカー日本男子代表	433
8	神田沙也加	407
9	羽生結弦	247
10	本田圭佑	210

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の第1位と比べると、

- | | | |
|---------|--------------------|---------------|
| 【芸能界】 | 「指原莉乃（HKT48）」(12件) | → 「タモリ」(10件) |
| 【スポーツ界】 | 「本田圭佑」(51件) | → 「浅田真央」(38件) |
| 【その他】 | 「自分」(8件) | → 「自分」(3件) |

となっており、【芸能界】では「AKB48」に人気が集中していた昨夏とは少し状況が変わってきているようです。【スポーツ界】では、ソチ五輪の出場選手に票が集まりました。

なお、過去 10 年間のトップ 5 は下表の通りとなっています。

表 6. <参考：過去 10 年間のトップ 5>

年	芸能界		スポーツ界		その他				
	順位	人名・グループ名	件数	順位	人名・グループ名	件数	順位	人名・グループ名	件数
2005年 夏	1	ORANGE RANGE	31	1	サッカー日本代表	96	1	自分	20
	2	ヒロシ	11	2	ジーコ監督	27	2	堀江貴文	11
	3	アンガールズ	6	3	大黒将志	19	3	夫	6
	4	松平健	6	4	宮里藍	13	4	小泉純一郎	4
	5	青木さやか	4	5	松井秀喜	6	5		
2006年 夏	1	倖田來未	11	1	荒川静香	68	1	自分	26
	2	SMAP	6	2	イチロー	33	2	夫	24
	3	みのもんた	5	3	WBC日本代表	20	3	小泉純一郎	5
	4	KAT-TUN	4	4	王貞治監督	10		母親	5
	4	オリエンタルラジオ	4	5	サッカー日本代表	9			
2007年 夏	1	陣内智則	33	1	石川遼	58	1	東国原英夫	38
	2	藤原紀香	12	2	斎藤佑樹	52	2	安倍晋三	17
	3	タカアンドトシ	7	3	田中将大	34	3	小泉純一郎	5
	4	みのもんた	6	4	イチロー	29	4	長妻昭	4
	5	松本人志	6	5	桑田真澄	24			
2008年 夏	1	エド・はるみ	38	1	イチロー	25	1	自分	21
	2	羞恥心	14	2	北島康介	24	2	橋下徹	20
	3	上地雄輔	12	3	男子バレー日本代表	22	3	東国原英夫	12
	4	三谷幸喜	10	4	クルム伊達公子	20	4	夫	9
	5	水谷豊	9	5	ダルビッシュ有	17	5	両親	8
2009年 夏	1	オードリー	18	1	イチロー	107	1	辻井伸行	22
	2	森光子	12	2	石川遼	21	2	自分	6
	3	はんにゃ	9	3	田中将大	11	3	橋下徹	5
	4	草彅剛	7	4	WBC日本代表	7	4	鳩山邦夫	4
		島田紳助	7	5	太田雄貴	6	5	舛添要一	3
2010年 夏	1	嵐	45	1	石川遼	44	1	蓮舫	14
	2	福山雅治	9	2	浅田真央	42	2	両親	8
	3	はるな愛	8	3	イチロー	40	3	自分	7
	4	ビートたけし	7	4	高橋大輔	21	4	鳩山由紀夫	5
	5	加藤清史郎	5	5	本田圭佑	20	5	はやぶさ(小惑星探査機)	4
2011年 夏	1	EXILE	5					東国原英夫	4
	1	AKB48	41	1	石川遼	73	1	枝野幸男	12
	2	江頭2:50	23	2	長友佑都	44	2	東日本大震災の被災者	11
	3	嵐	22	3	安藤美姫	16	3	菅直人	9
	4	芦田愛菜	13	4	イチロー	16	4	孫正義	8
2012年 夏	5	山本太郎	9	5	長谷部誠	13		福島第一原発の作業員	8
	1	AKB48	29	1	澤穂希	23	1	自分	9
	2	嵐	17	2	香川真司	22	2	橋下徹	7
	3	スギちゃん	14	3	なでしこジャパン	22	3	夫	3
	4	芦田愛菜	5	4	ダルビッシュ有	16	3	野田佳彦	3
2013年 夏	5	大島優子(AKB48)	5	5	本田圭佑	14		東日本大震災の被災者	3
	1	指原莉乃(HKT48)	12	1	本田圭佑	51	1	自分	8
	2	嵐	9	2	錦織圭	21	2	林修(東進ハイスクール)	6
	3	中村昌也	8	3	ダルビッシュ有	10	3	橋下徹	5
	4	キンタロー。	7	4	浅田真央	7	3	安倍晋三	5
2014年 夏	5	AKB48	6	4	イチロー	7	5	DJボリス	4
		福山雅治	6		サッカー日本代表	7		三浦雄一郎	4
	1	タモリ	10	1	浅田真央	38	1	自分	3
	2	嵐	9	2	羽生結弦	20		ふなっしー	3
	3	有吉弘行	7	3	田中将大	18			
	4	坂上忍	6	4	本田圭佑	9			
	5	AKB48	4	5	イチロー	6			
					錦織圭	6			

(得票数 3 件以上ののみ)

7. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナスが ボーナス払いに 消えてゆく」、「ボーナスと いう名の子供の 教育費」、「ボーナスを もらったことは 忘れよう」、「ボーナスで あと半年は 生きれそう」、「ボーナスで 帰省ができる 2年ぶり」、「ボーナス日 通帳ながめ ほくそえむ」など、受給額によって悲喜こもごも。

表 7. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数
1	家計のやりくりの大変さ	75
2	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	33
3	使い道は貯蓄が最優先	20
4	ボーナスが出ただけマシ	18
5	夫への感謝の気持ち	15
6	世相を反映	14
	ボーナスが出たことへの感謝	14
8	ボーナスに期待していない	13
9	使い道は旅行や食事	12
10	ボーナスの額を見て喜んだ気持ち	10
11	今後のボーナスが不安	7
	ボーナスの支給日・支給額がわからない	7

夏のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」(75件)を詠んだものや、「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」(33件)、「ボーナスが出ただけマシ」(18件)、「ボーナスに期待していない」(13件)といった“現状の厳しさ”を詠むものが多くなっていますが、「夫への感謝の気持ち」(15件)、「ボーナスが出たことへの感謝」(14件)、「ボーナスの額を見て喜んだ気持ち」(10件)といった“感謝の気持ち”を表す川柳も少なくありません。

また、「世相を反映」(14件)は消費税増税に関するものが多くなっていますが、アベノミクスに関するものも若干みられます。

実際に詠まれた川柳の代表例は以下の通りです。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・ボーナスが ボーナス払いに 消えてゆく
- ・ボーナスが 出ても変わらぬ お小遣い
- ・ボーナスが 出ても家計は 潤わず
- ・ボーナスと いう名の子供の 教育費
- ・ボーナスの 行方は既に 決まってる

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナスの もらえる旦那が 欲しかった

- ・ボーナスで 何を買おうか 夢見るが
- ・ボーナスを もらったことは 忘れよう

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・ボーナスが 出たが全額 銀行へ
- ・ボーナスが 入った口座 妻名義

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・ボーナスは 出るだけましと 言い聞かせ

【夫への感謝の気持ち】

- ・囲まれて 1日アイドル ボーナス日
- ・夫婦仲 ボーナス日には 円満に

【世相を反映】

- ・ボーナスに 消費税並みの 上げもなし
- ・ボーナスも 便乗値上げと 頼みたい

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・少ないが 心の底から 感謝です
- ・ボーナスで あと半年は 生きれそう

【ボーナスに期待していない】

- ・ボーナスは ないと思って 株投資
- ・賢けりや ボーナスなどに 頼らない

【使い道は旅行や食事】

- ・ボーナスで 帰省ができる 2年ぶり

【ボーナスの額を見て喜んだ気持ち】

- ・ボーナス日 通帳ながめ ほくそえむ

【今後のボーナスが不安】

- ・いつまでも あると思うな ボーナス日

【ボーナスの支給日・支給額がわからない】

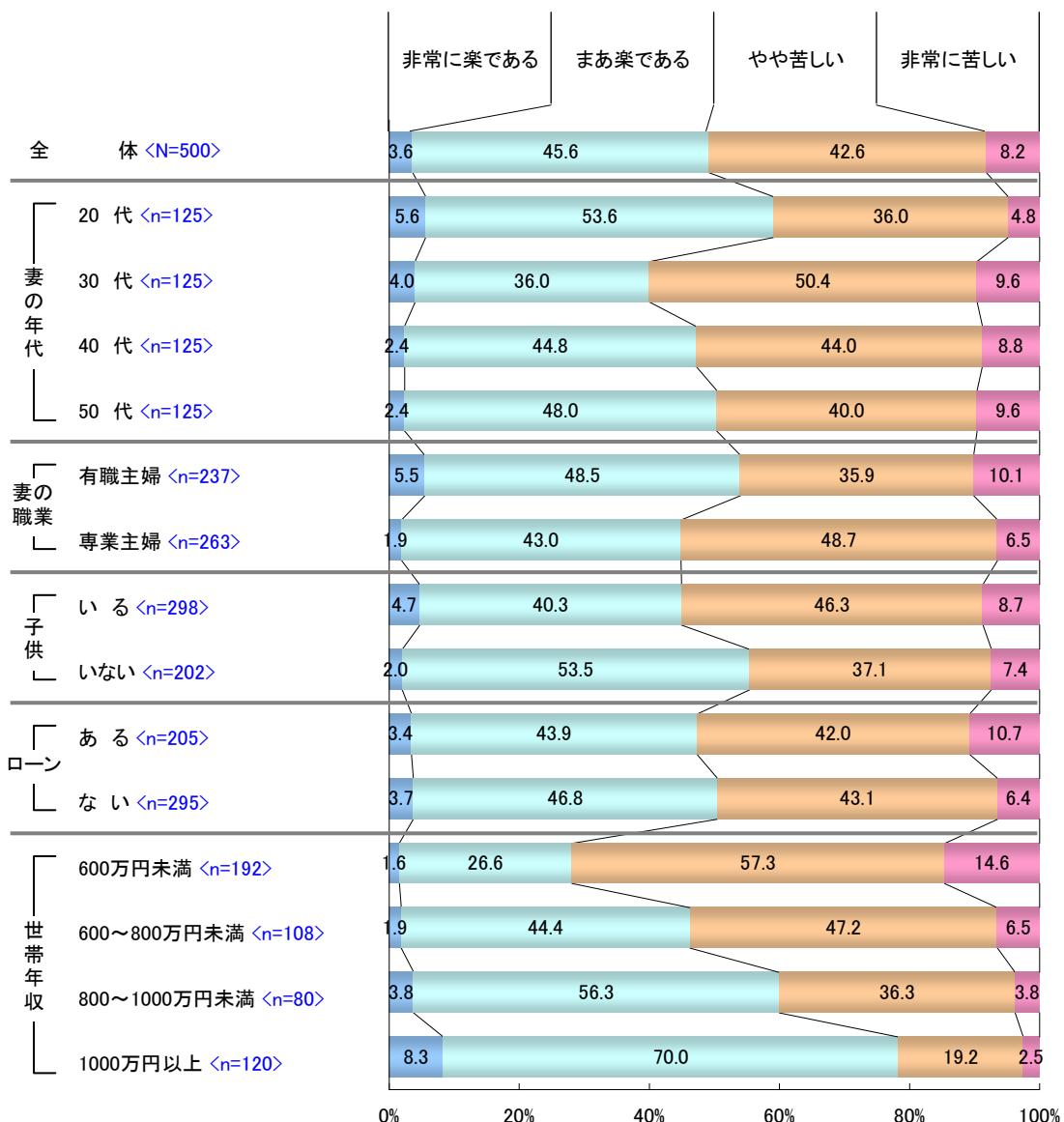
- ・ボーナスが 出たか出ないか 知らされず
- ・口振りで 入ってるらしい 我が家のボーナス

1. 家計についての現状認識

“楽である”(49.2%)と“苦しい”(50.8%)がほぼ同率で、家計の状況は改善に向かっている。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 9. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いてみたところ、「非常に楽である」(3.6%)、「まあ楽である」(45.6%)を合わせた“楽である”がほぼ半数(49.2%)を占め、「やや苦しい」(42.6%)、「非常に苦しい」(8.2%)を合わせた“苦しい”(50.8%)と二分された状況となっています。

- ・妻の年代別にみると、《20代》を除けば年代が上の人ほど“楽である（非常に+まあ）”とする割合が高く、《30代》40.0%、《40代》47.2%、《50代》50.4%となっていますが、《20代》(59.2%)では逆に最も高くなっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では“苦しい”(46.0%)よりも“楽である”(54.0%)の方が多くなっていますが、《専業主婦》では逆に“苦しい”(55.1%)が“楽である”(44.9%)を上回っています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“苦しい”的割合は、《いる》(55.0%)という人の方が《いない》(44.6%)という人よりも10ポイント以上高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識は、ローンが《ある》(52.7%)という人の方が《ない》(49.5%)よりもやや高めですが、あまり大きな差ではありません。
- ・世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“楽である”的割合が高く、《600万円未満》では3割弱(28.1%)と少数ですが、《600～800万円未満》(46.3%)ではほぼ半数、《800～1,000万円未満》では6割(60.0%)、《1,000万円以上》になるとほぼ8割(78.3%)と大きな差が生じています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査では、“楽である”(46.8%)よりも“苦しい”(53.2%)の方がやや多くなっていましたが、今回は“楽である”(49.2%)と“苦しい”(50.8%)がほぼ同率となり、家計の状況は改善に向かっていることがうかがえます。

2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

第一に「子供の教育費」(163件)を削りたくないが、「旅行・レジャー費」(108件)、「食費」(104件)、「外食費」(35件)なども削りたくない。

表 8. これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

順位		件数
1	子供の教育費	163
2	旅行・レジャー費	108
3	食費	104
4	外食費	35
5	美容費(エステ、化粧品など)	17
6	趣味にかかる費用	15
7	服飾・衣料費	12
8	娯楽・教養費(新聞・書籍など)	11
9	医療費	9
	貯金	9
11	ペットにかける費用	7
12	帰省費	6
13	交際費	5

前述のように家計の現状を“苦しい”とみている主婦が過半数を占めていましたが、ここでは家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出を具体的にあげてもらいました。

最も多かったのは「子供の教育費」(163件)で、以下「旅行・レジャー費」(108件)、「食費」(104件)、「外食費」(35件)などが続いています。

家計が“苦しい”からといって、「子供の教育費」だけは削りたくない・お金をかけたいと考える人が多いようです。しかし、「旅行・レジャー費」といった“楽しみ”も忘れないようです。

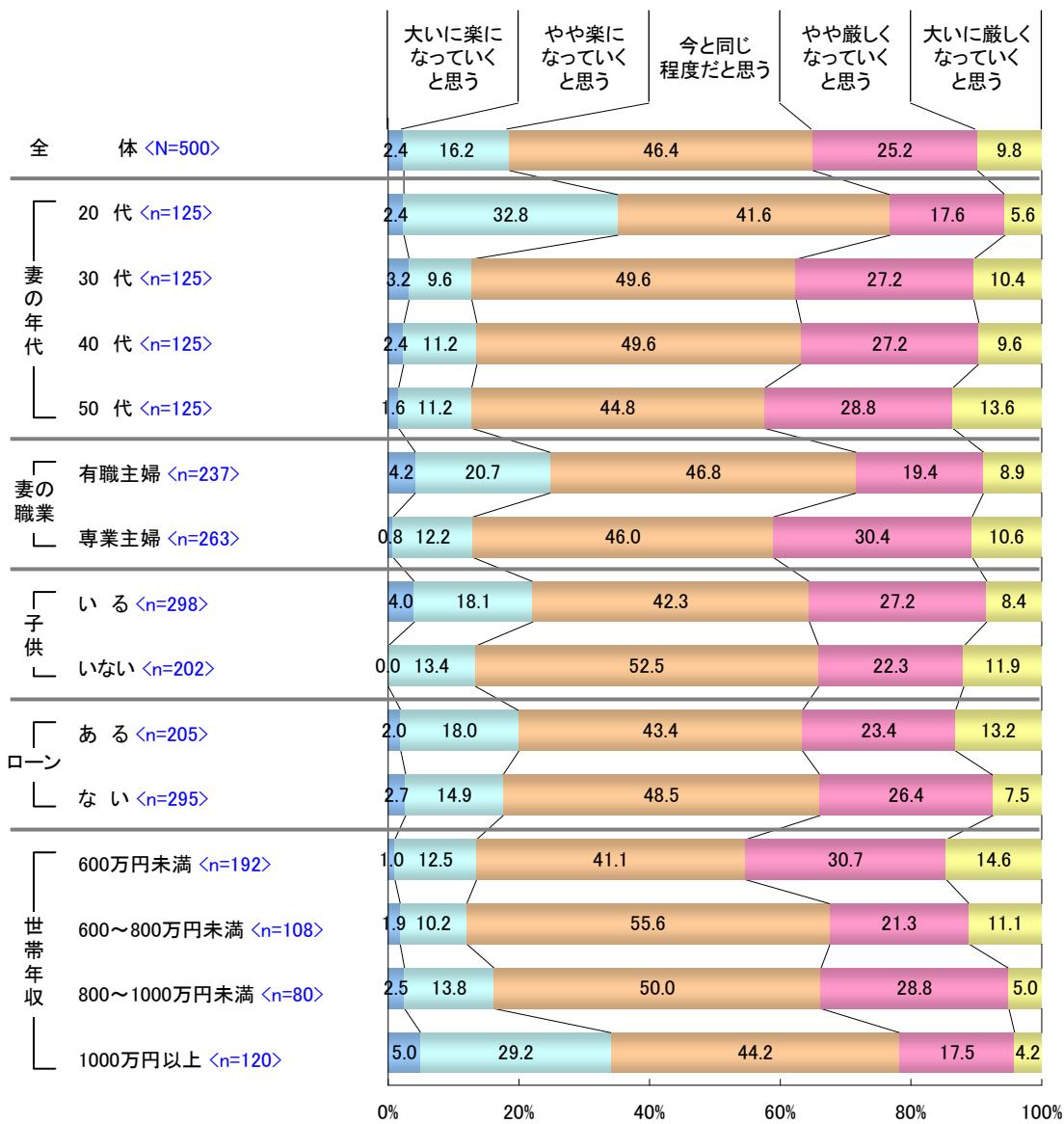
昨夏の結果と比べると、「旅行・レジャー費」(147件→108件)がかなり減っており、引き締めようという気持ちの表れかも知れません。

3. 今後の家計の見通し

ほぼ半数が「今と同じ程度だと思う」(46.4%)としているが、依然“楽になっていく”(18.6%)より“厳しくなっていく”(35.0%)との見方が強い。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや樂になっていくと思う」「大いに樂になっていくと思う」の合計を表します。

図 10. 今後の家計の見通し



今後の家計の見通しを聞いたところ、「今と同じ程度だと思う」という回答が約半数(46.4%)を占めていますが、そのほかでは、“楽になっていく（大いに+やや）”と前向きにとらえている人は2割弱(18.6%)にとどまり、“厳しくなっていく（大いに+やや）”(35.0%)と考えている人の方がかなり多くなっています。これまでにみてきたように、家計の状況は上向いてきているものの、主婦の意識としては厳しい見方が多い結果となっています。

- ・妻の年代別みると、年代が上の人ほど“厳しくなっていく（大いに+やや）”が多い傾向がみられ、《20代》では2割台(23.2%)、《30代》(37.6%)、《40代》(36.8%)では3割台、《50代》(42.4%)では4割台となっています。

- ・妻の職業別にみると、“厳しくなっていく”割合は《専業主婦》(41.1%)の方が《有職主婦》(28.3%)よりも10ポイント以上高くなっています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“厳しくなっていく”割合は、《いる》(35.6%)と《いない》(34.2%)の間にあまり差はありませんが、“楽になっていく”という割合は《いる》(22.1%)の方が《いない》(13.4%)よりも高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“厳しくなっていく”との見方はローンが《ある》(36.6%)の方が《ない》(33.9%)よりもやや多い程度です。
- ・世帯年収別にみると、《1,000万円以上》では“楽になっていくと思う”(34.2%)の方が“厳しくなっていくと思う”(21.7%)よりも10ポイント以上高くなっていますが、《1,000万円未満の層》ではいずれも“厳しくなっていくと思う”的方が多くなっています。特に、《600万円未満》の人では“厳しくなっていくと思う”(45.3%)が半数近くを占め、“楽になっていくと思う”(13.5%)よりも30ポイント以上高い割合を示しています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“楽になっていく”(17.4%→18.6%)、「今と同じ程度だと思う」(47.6%→46.4%)、“厳しくなっていく”(35.0%→35.0%)のいずれも前回並みで、先行きは厳しいという見方は変わっていません。

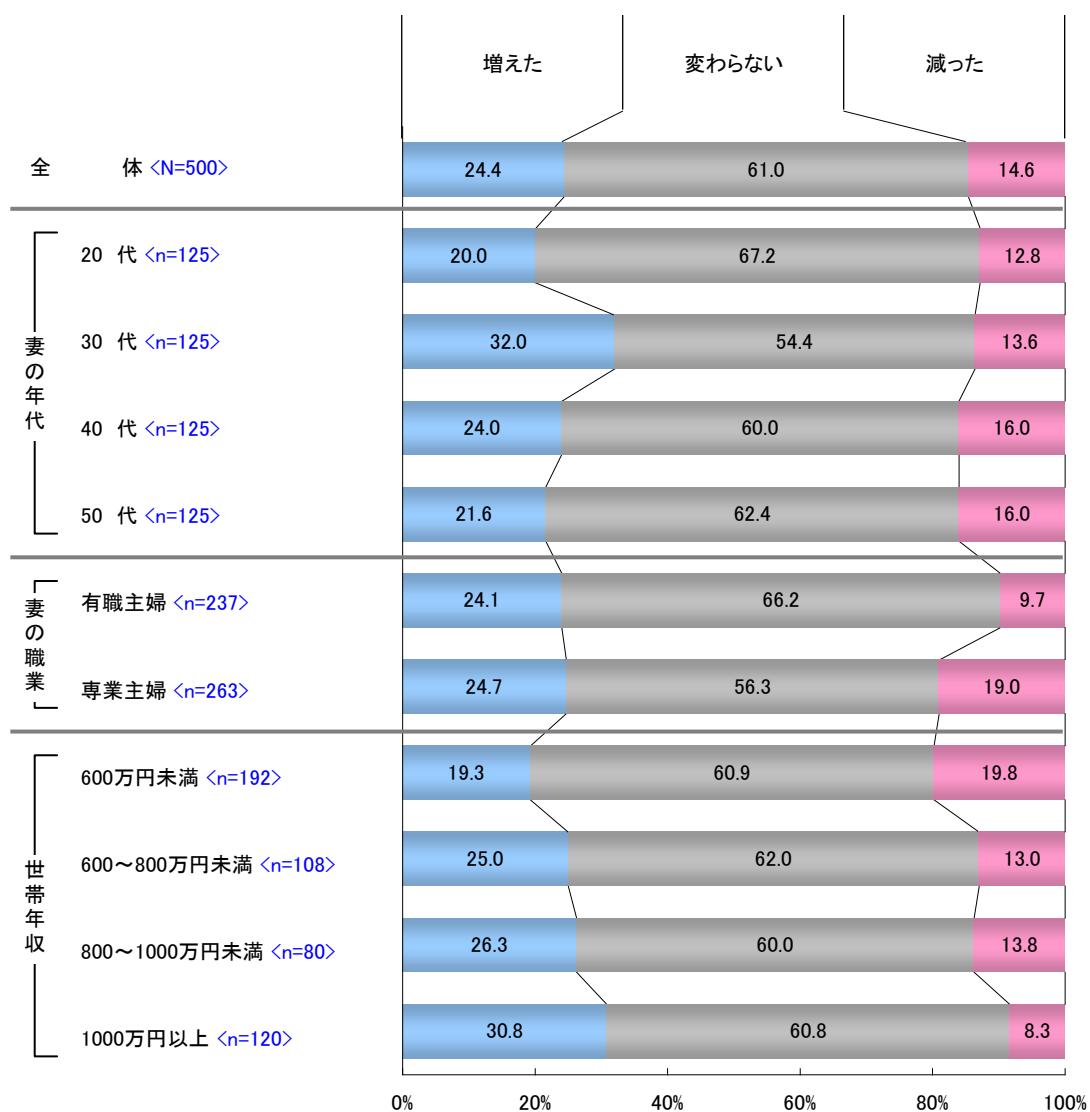
4. 世帯の金融資産の増減

「変わらない」が6割強(61.0%)を占めているが、「減った」(14.6%)よりも「増えた」(24.4%)方が多い。

◆「増えた」金額は平均「130.0 万円」、「減った」金額は「124.5 万円」。

◆「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(52 件)、「節約したから」(15 件)、「ボーナスを貯金したから」(13 件)など“貯金、節約”が多い中、「株などで運用益が出たので」(13 件)という理由も。「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(22 件)、「車を購入したので」(10 件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(8 件)、「冠婚葬祭に使ったため」(7 件)といったさまざまな支出や、「収入が減ったため」(7 件)。

図 11. 世帯の金融資産の増減



家庭の預貯金や運用などを合わせた「金融資産の残高」は今年1年で増えたか、減ったか聞いてみたところ、「変わらない」が6割強(61.0%)と多数を占めています。「増えた」(24.4%)と「減った」(14.6%)とでは「増えた」の方が多く、全体としては若干の増加傾向にあるようです。

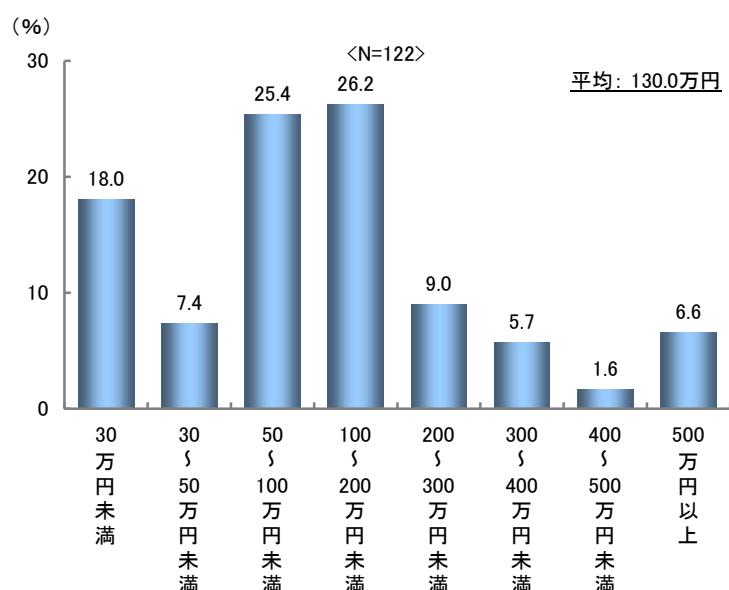
- ・妻の年代別にみると、いずれの年代でも「増えた」という方が「減った」よりも多くなっていますが、《30代》で「増えた」(32.0%)割合が最も高くなっています。

- ・妻の職業別にみると、「増えた」割合には差はありませんが、「減った」割合は《有職主婦》(9.7%) よりも《専業主婦》(19.0%) の方が 10 ポイント近く高くなっています。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高い人ほど「増えた」、低いほど「減った」の割合が高い傾向がみられ、《600万円未満》では「増えた」(19.3%) と「減った」(19.8%) がほぼ同じ割合ですが、《1,000万円以上》の人では「減った」(8.3%) はごくわずかで、「増えた」(30.8%) が 3 割に達しています。

■昨夏の調査結果との比較■

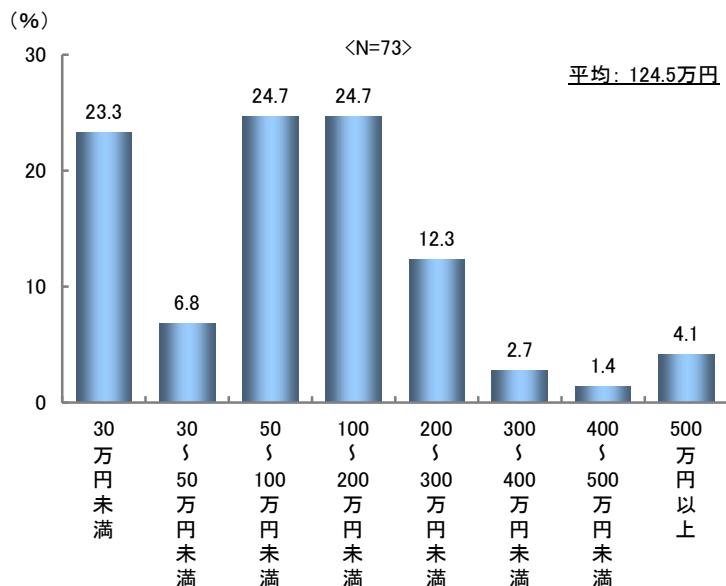
昨夏の調査結果と比べ、「変わらない」(54.2%→61.0%) が増えており、「増えた」(26.2%→24.4%)、「減った」(19.6%→14.6%) ともに減っていますが、「減った」の方が減少幅が大きく、その結果「増えた」と「減った」の差が広がっています。

図 12. 増えた額



金融資産が「増えた」と答えた人に、増えた金額を聞いてみたところ、「100~200万円未満」(26.2%)、「50~100万円未満」(25.4%)、「30万円未満」(18.0%)などが多く、平均「130.0万円」となっています。

図 13. 減った額



一方、「減った」金額は、「50~100万円未満」(24.7%)、「100~200万円未満」(24.7%)、「30万円未満」(23.3%)などの順で、平均は「124.5万円」。増えた金額(130.0万円)に比べやや少なくなっています。

表 9. “金融資産の残高”の増減の理由（自由回答：件）

<増えた理由>		<減った理由>		<変わらない理由>	
順位	件数	順位	件数	順位	件数
1	こつこつ貯めたから・定期預金	1	子供の教育費に使ったから	1	収支が変わらないため
2	節約したから	2	車を購入したので	2	ローンや生活費などで貯金できなかつたから
3	株などで運用益が出たので	3	家を購入したので・住宅ローンに充てたので	3	収入が増えても支出も多かつたため
	ボーナスを貯金したから	4	冠婚葬祭に使ったため	4	生活に変化がなかつたため
5	昇給などで収入が増えたから	5	収入が減つたため	5	特に運用などしていないから
6	保険の支払い・退職金などの臨時収入があったから	6	生活費に補填したから	6	元々資産はないから
		7	趣味などに使つたため	7	貯金に手をつけていないから
		8	医療費が増えたため	8	把握していない・夫がそう言っているから
			株や投資などで目減りしたから	9	収入が減つたから

“金融資産の残高”が増減した理由を具体的に聞いてみました。

「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(52件)、「節約したから」(15件)、「ボーナスを貯金したから」(13件)など“貯金した、節約した”という理由が多くなっている中、「株などで運用益が出たので」(13件)という理由があげられているのも目立ちます。

「減った」理由は、「子供の教育費に使つたから」(22件)、「車を購入したので」(10件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(8件)、「冠婚葬祭に使つたため」(7件)といったさまざまな支出があつたことや、「収入が減つたため」(7件)などがあげられています。

「変わらない」という理由は、「収支が変わらないため」(49件)が最も多く、以下「ローンや生活費などで貯金できなかつたから」(28件)、「収入が増えても支出も多かつたため」(27件)、「生活に変化がなかつたため」(19件)などとなっています。中には「把握していない・夫がそう言つているから」(10件)とあまり関心がない人もみられます。

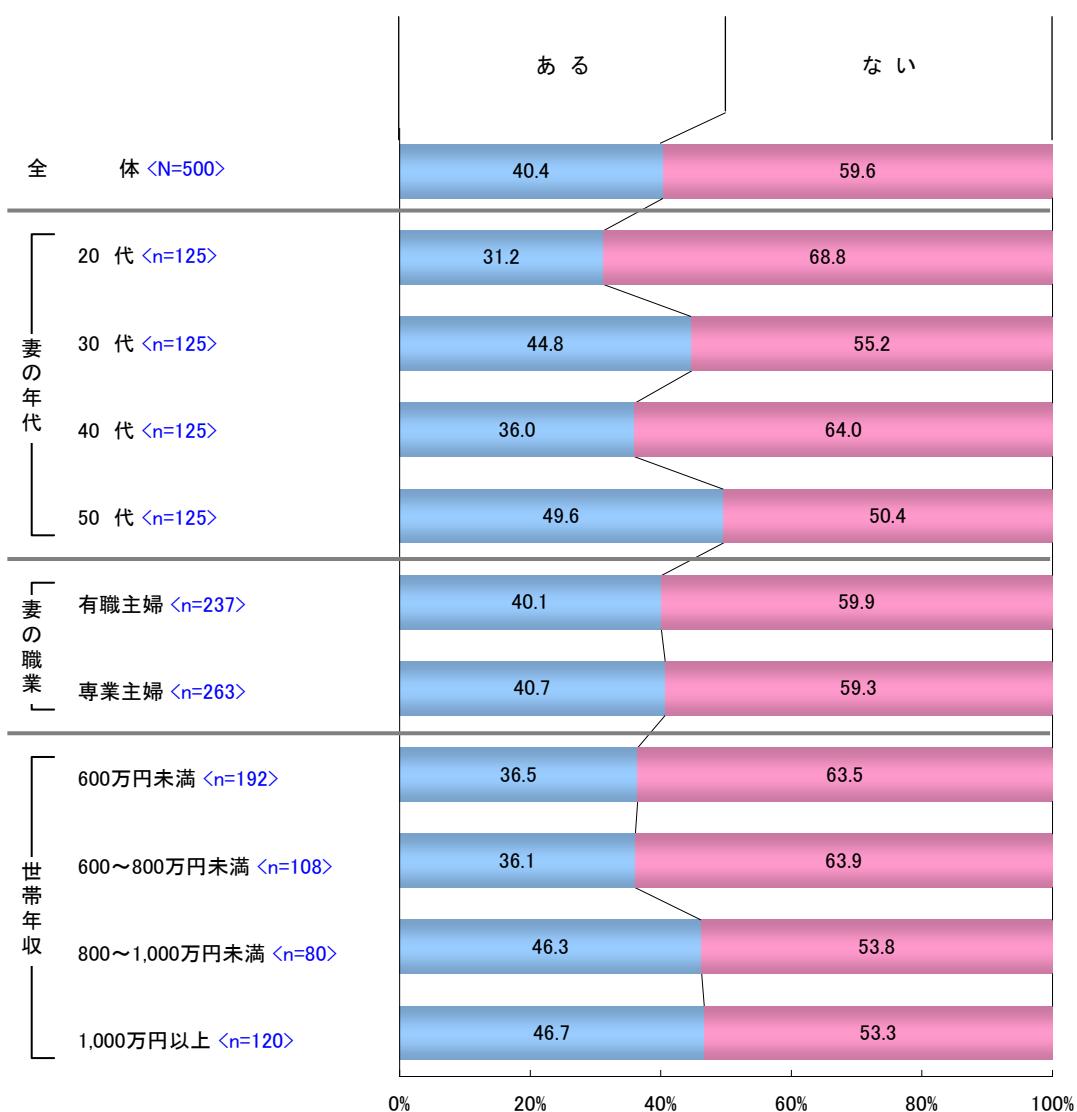
III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

約4割(40.4%)が『夫に内緒の資産』を“持っている”。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 14. 『夫に内緒の資産』の保有状況



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いてみたところ、約4割（40.4%）が「ある」と回答しています。

- ・妻の年代別にみると、「ある」割合、すなわち保有率は年代が上の人ほど高い傾向がみられ、最も高い《50代》(49.6%) ではほぼ半数に達し、最も低い《20代》(31.2%) より 20 ポイント近くも高率です。ただし、《30代》(44.8%) と《40代》(36.0%) では《30代》の方がむしろ多めです。
- ・妻の職業別ではほとんど差はありません。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が多くなるほど保有率も高い傾向がみられ、保有率は《600万円未満》(36.5%)、《600～800万円未満》(36.1%) の3割台に比べ、《800～1,000万円未満》(46.3%)、《1,000万円以上》(46.7%) では4割台を示しています。

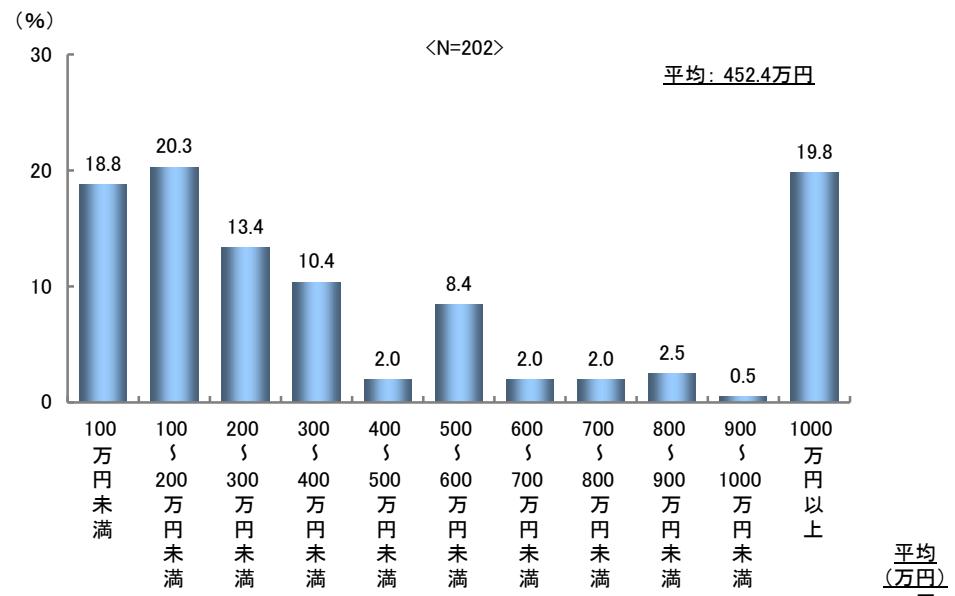
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、『夫に内緒の資産』を持っている人の割合は、41.8%→40.4%とあまり変わっていません。

2. 『夫に内緒の資産』の保有額

内緒の資産を持っている人の保有額は、「100～200万円未満」(20.3%)、「100万円未満」(18.8%)といった低い金額が多いほか、「1,000万円以上」もほぼ2割(19.8%)と、人による差が大きい。平均額は「452.4万円」で昨夏(416.0万円)より30万円以上アップしており、特に「1,000万円以上」(10.0%→19.8%)の人が倍増している。

図 15. 『夫に内緒の資産』の保有額



妻の年代	20代 <n=39>	平均 (万円)										
		35.9	15.4	17.9	10.3	2.6	7.7	2.6	2.6	-	2.6	2.6
30代 <n=56>	21.4	26.8	17.9	7.1	3.6	5.4	1.8	1.8	1.8	-	1.8	12.5
40代 <n=45>	20.0	15.6	8.9	8.9	-	11.1	2.2	2.2	4.4	-	26.7	704.8
50代 <n=62>	4.8	21.0	9.7	14.5	1.6	9.7	1.6	1.6	3.2	-	32.3	486.4
妻職の業	有職主婦 <n=95>	14.7	21.1	14.7	10.5	1.1	11.6	-	-	3.2	1.1	22.1
	専業主婦 <n=107>	22.4	19.6	12.1	10.3	2.8	5.6	3.7	3.7	1.9	-	17.8
世帯年収	600万円未満 <n=70>	28.6	18.6	18.6	8.6	2.9	7.1	2.9	2.9	-	7.1	312.6
	600～800万円未満 <n=39>	30.8	28.2	10.3	12.8	-	2.6	2.6	2.6	5.1	-	5.1
	800～1000万円未満 <n=37>	16.2	27.0	13.5	18.9	-	13.5	-	2.7	-	-	8.1
	1000万円以上 <n=56>	-	12.5	8.9	5.4	3.6	10.7	1.8	-	1.8	1.8	53.6

次に、『夫に内緒の資産』を持っている人(202名)にその金額を聞いてみたところ、「100～200万円未満」(20.3%)、「100万円未満」(18.8%)といった低い金額が多いほか、「1,000万円以上」もほぼ2割(19.8%)を占めており、非常にバラつきの多い結果となっています。中には「3億円」「1億2千万円」といった高額の資産を持っている人もいますが、そういう例外的な金額(5千万円以上)の人を除けば、平均は「452.4万円」となっています。

- ・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代が上の人ほど多くなる傾向が強くみられ、「1,000万円以上」は《20代》(2.6%)ではほとんどいませんが、《50代》(32.3%)では3割を超えており、平均も《50代》(704.8万円)では《20代》(224.0万円)の3倍以上の金額となっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》(平均486.4万円)の方が《専業主婦》(423.3万円)よりも60万円以上高く、やはり仕事を持っている主婦の方が多い『夫に内緒の資産』を持っています。

- ・世帯年収別にみると、《1,000万円以上》（平均 943.2 万円）の人の保有額が突出して高く、《1,000万円未満の層》の 200～300 万円前後に比べて差が目立ちます。

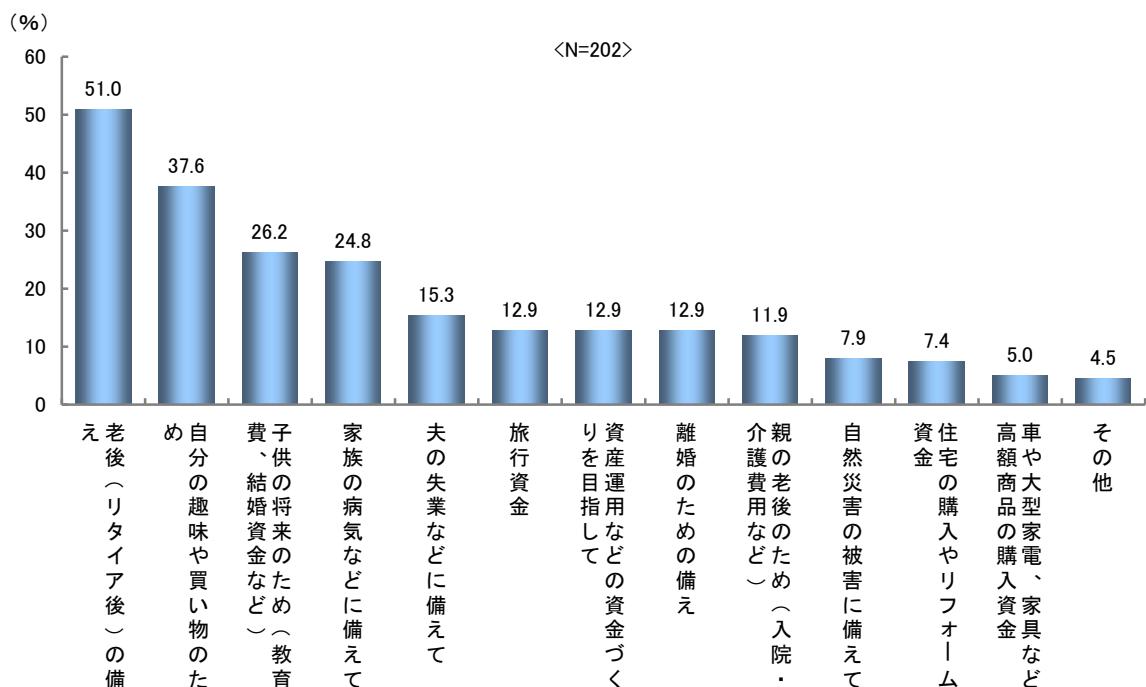
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「1,000 万円以上」(10.0%→19.8%) がほぼ倍増しているのが目立ち、平均金額も 416.0 万円→452.4 万円と、30 万円以上 (36.4 万円) アップしています。

3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的

「老後(リタイア後)の備え」(51.0%)、「自分の趣味や買い物のため」(37.6%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(26.2%)、「家族の病気などに備えて」(24.8%)などの順で、自分のために使うのもさることながら、“将来の備え”的な目的という動機が大きい。

図 16. 『夫に内緒の資産』を持つ目的（複数回答）



妻の年代	20代 <n=39>	28.2	43.6	43.6	30.8	12.8	17.9	15.4	15.4	12.8	12.8	5.1	2.6	5.1
30代 <n=56>	44.6	44.6	33.9	30.4	21.4	7.1	8.9	10.7	14.3	3.6	12.5	7.1	3.6	
40代 <n=45>	53.3	31.1	17.8	24.4	22.2	4.4	11.1	8.9	13.3	8.9	4.4	4.4	6.7	
50代 <n=62>	69.4	32.3	14.5	16.1	6.5	21.0	16.1	16.1	8.1	8.1	6.5	4.8	3.2	

『夫に内緒の資産』をどのように使うために持っているのかを聞いてみたところ、「老後(リタイア後)の備え」(51.0%)が抜きん出て多く、以下「自分の趣味や買い物のため」(37.6%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(26.2%)、「家族の病気などに備えて」(24.8%)、「夫の失業などに備えて」(15.3%)、「旅行資金」(12.9%)、「資産運用などの資金づくりを目指して」(12.9%)、「離婚のための備え」(12.9%)、「親の老後のため(入院・介護費用など)」(11.9%)などの順となっています。

自分のために使うのもさることながら、“将来の備え”的な目的で『夫に内緒の資産』を持っている主婦が多いことがうかがえます。

- ・妻の年代別にみると、「老後(リタイア後)の備え」は年齢が上がるほど高くなる傾向が顕著で、《20代》では3割弱(28.2%)ですが、《50代》(69.4%)では7割近くと、大きな差がみられます。逆に「自分の趣味や買い物のため」「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」「家族の病気などに備えて」などは若い人ほど多くあげています。

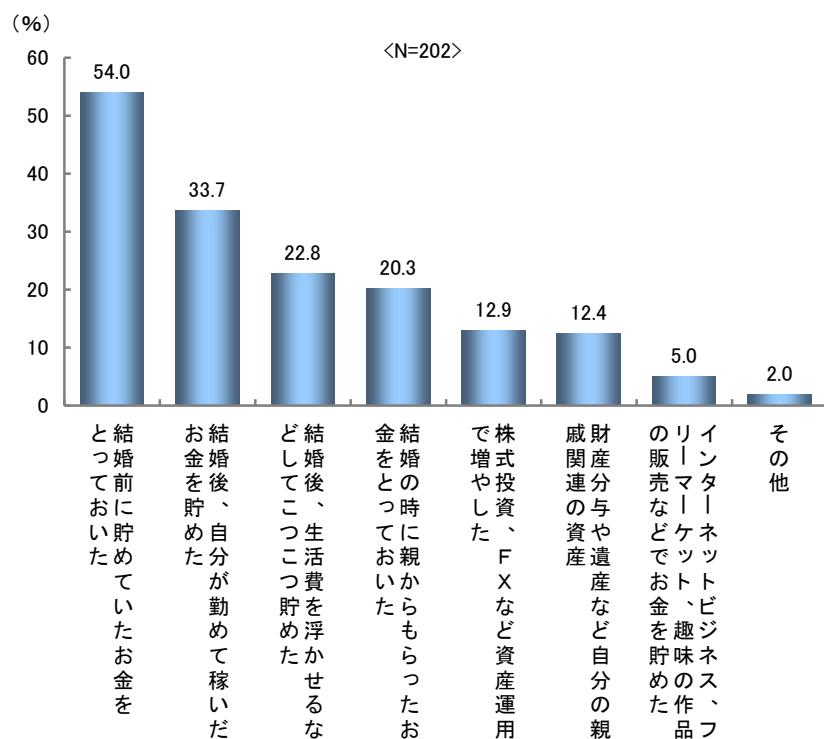
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても、あまり大きな変化はみられません。

4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(54.0%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(33.7%)と“自分で働いて貯めた”お金が主。以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(22.8%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(20.3%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(12.9%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(12.4%)など。

図 17. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものでしょうか。

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(54.0%)が半数を超えて最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(33.7%)があげられており、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(22.8%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(20.3%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(12.9%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(12.4%)などとなっています。

表 10. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

		サンプル数	結婚前に貯めていたお金を	結婚後、自分が勤めて稼いだ	結婚後、生活費を浮かせるな	結婚の時に親からもらつたお	で株式投資、FXなど資産運用	戚財関連の資産分与や遺産など自分の親	のりマーチネッジト、ビジネスの販売などでツツト金を趣味ねめのス	その他	
			全 体	202	54.0	33.7	22.8	20.3	12.9	5.0	2.0
内緒の資産	100万円未満	38	36.8	28.9	26.3	18.4	5.3	—	10.5	2.6	
	100～200万円未満	41	36.6	31.7	26.8	7.3	7.3	9.8	—	2.4	
	200～300万円未満	27	77.8	18.5	18.5	22.2	3.7	3.7	3.7	3.7	
	300～500万円未満	25	64.0	40.0	8.0	36.0	12.0	8.0	8.0	—	
	500～1000万円未満	31	67.7	35.5	35.5	29.0	16.1	9.7	9.7	—	
	1000万円以上	40	55.0	45.0	17.5	17.5	30.0	37.5	—	2.5	

内緒の資産額別の傾向をみると、「1,000万円以上」の人で「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(30.0%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(37.5%)の割合が高いのが目立ちます。

なお、前述した高額資産者の理由をみると、

- ・ 3億円-----「結婚前に貯めていたお金をとつておいた」
- ・ 1億2千万円---「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」「株式投資、FXなど資産運用で増やした」「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」

となっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても大きな変化はありませんが、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(7.7%→12.9%)がやや増えています。

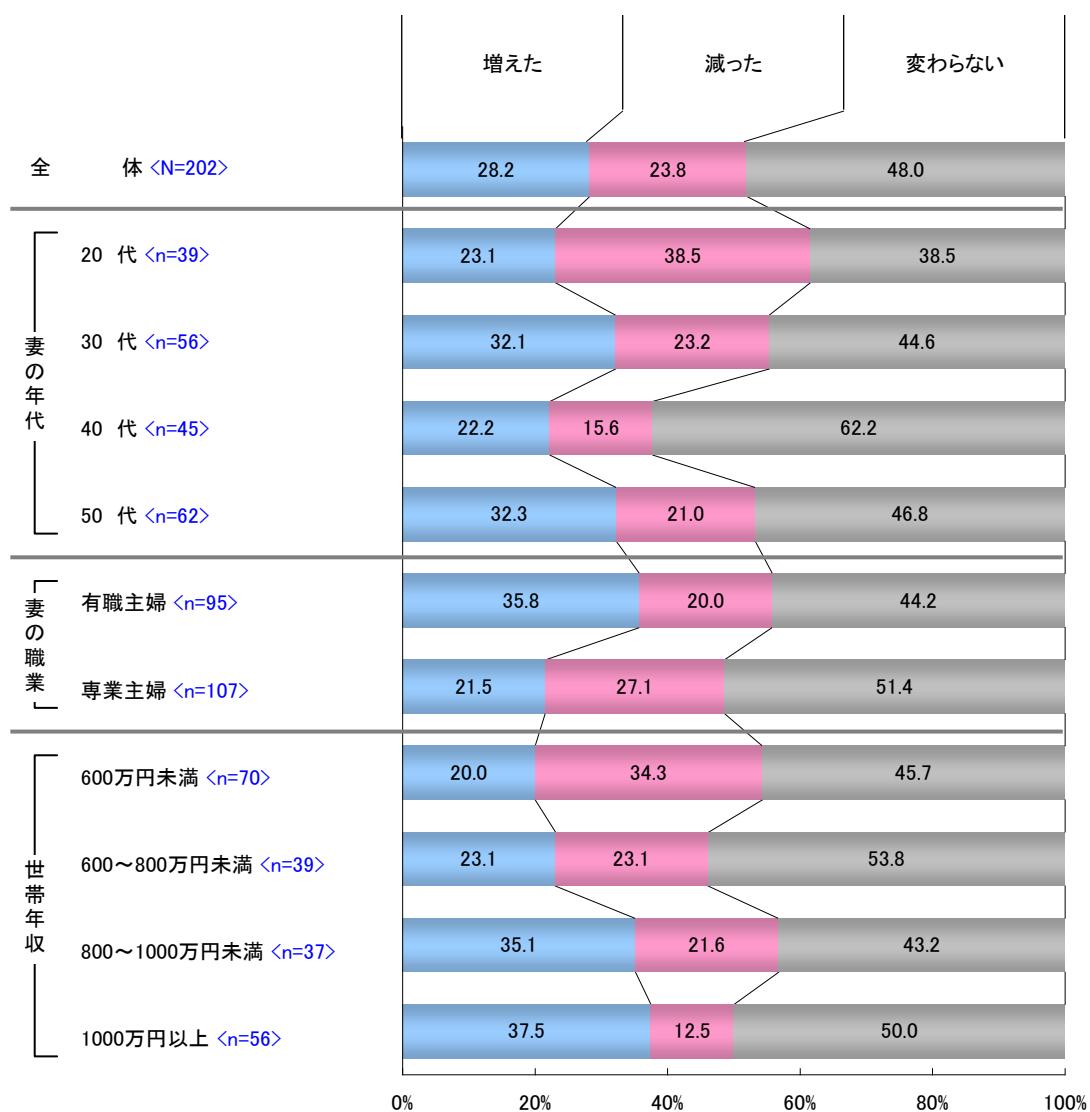
5. 『夫に内緒の資産』の増減

今年に入ってから“夫に内緒の資産”の増減は、ほぼ半数は「変わらない」(48.0%)が、「増えた」(28.2%)が「減った」(23.8%)をやや上回る。

◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(42.1%)と意図的に増やしたケースが最も多い、次いで「自分の収入や夫の収入が増えた」(24.6%)と自然と増えたケースが続く。

◆減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(39.6%)、「臨時出費があった」(18.8%)、「収入が減り、へそくりできなくなつた」(16.7%)など、やむを得ない理由で減った人がほとんど。

図 18. 『夫に内緒の資産』の増減



今年に入ってからの『夫に内緒の資産』の増減を聞いてみたところ、「変わらない」(48.0%) がほぼ半数を占めていますが、「増えた」(28.2%) 人の方が「減った」(23.8%) 人より多めです。

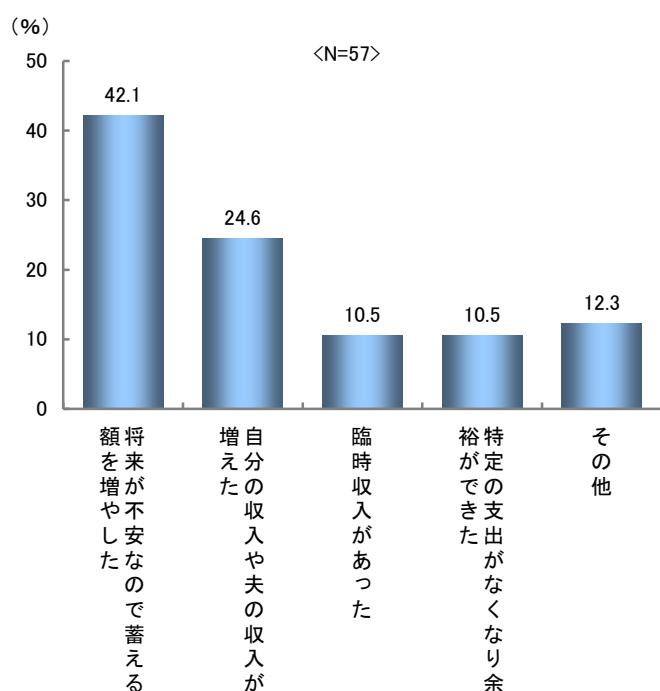
- ・妻の年代別にみると、《20 代》では「増えた」(23.1%) よりも「減った」(38.5%) の方がかなり多くなっています。30 代以上の年代では、いずれも「増えた」の方が多くなっています。

- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では「増えた」(35.8%)の方が「減った」(20.0%)を15ポイント以上も上回っていますが、《専業主婦》では逆に「増えた」(21.5%)よりも「減った」(27.1%)の方が多いくなっています。やはり働いている人の方が『夫に内緒の資産』を残しやすいようです。
- ・世帯年収別にみると、年収が多いほど「増えた」割合が高く、《600万円未満》の2割(20.0%)に比べ、《1,000万円以上》(37.5%)では4割に近い割合です。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても、「増えた」(27.3%→28.2%)、「減った」(24.9%→23.8%)、「変わらない」(47.8%→48.0%)とほとんど変化はありません。

図 19. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由



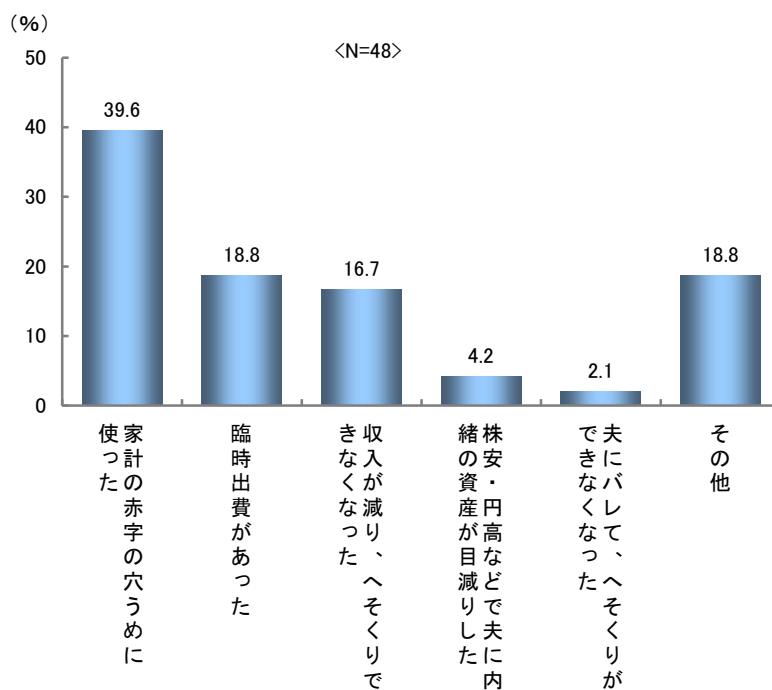
増えた人（57名）の理由をみると、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(42.1%)と意図的に増やしたケースが最も多く、次いで「自分の収入や夫の収入が増えた」(24.6%)と自然と増えたケースが続いています。

また、「臨時収入があった」(10.5%)という人の内訳としては、“自分の親からの相続”、“親からもらった”、“祖父からのお小遣い”、“生活費を浮かせた”などがみられます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果との比較をみると、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(35.1%→42.1%)が増えていくのが最も大きな変化です。

図 20. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



一方、減った人（48名）の理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」（39.6%）が突出して多く、以下「臨時出費があった」（18.8%）、「収入が減り、へそくりできなくなった」（16.7%）など、やむを得ない理由で減った人がほとんどとなっています。

なお、「臨時出費があった」（18.8%）の具体的な内容としては、“子供の教育費”、“旅行”、“新婚旅行”、“土地の購入”、“ダイヤのペンダントの購入”などがあげられています。

■昨夏の調査結果との比較■

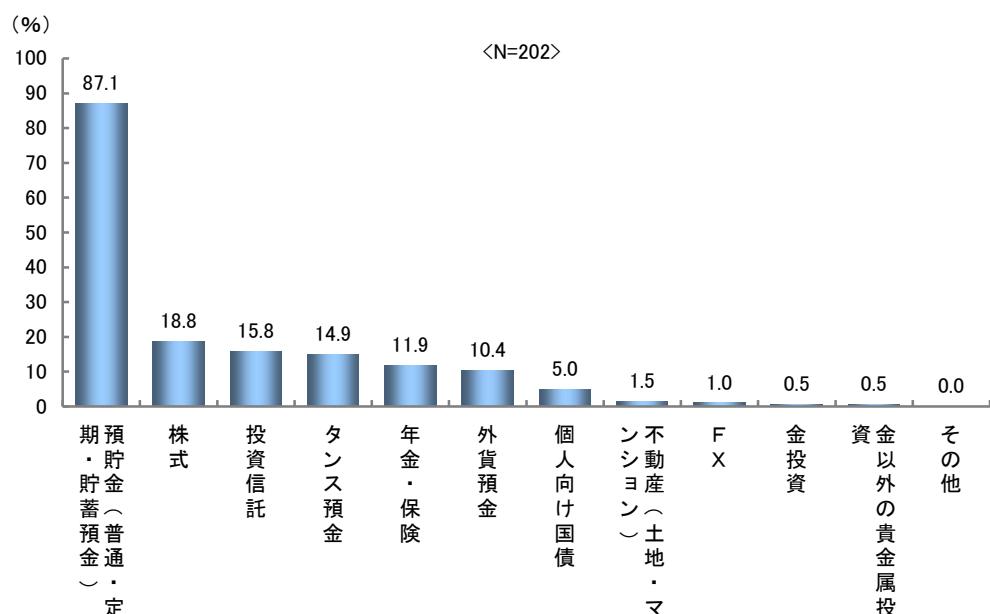
昨夏の調査結果をと比べても大きな差はみられません。

6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について

『夫に内緒の資産』は、現在「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」(87.1%)で保有している人が圧倒的。

●今後も、やはり「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」(80.2%)で保有したい。

図 21. 『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか（複数回答）



妻の年代	20代 <n=39>	89.7	5.1	5.1	15.4	2.6	2.6	2.6	-	-	2.6	-
	30代 <n=56>	94.6	14.3	10.7	8.9	5.4	10.7	1.8	-	-	1.8	-
	40代 <n=45>	84.4	17.8	15.6	26.7	8.9	6.7	8.9	2.2	2.2	-	-
	50代 <n=62>	80.6	32.3	27.4	11.3	25.8	17.7	6.5	3.2	1.6	-	-
	100万円未満 <n=38>	97.4	7.9	5.3	15.8	2.6	-	2.6	-	-	-	-
内緒の資産	100~200万円未満 <n=41>	82.9	7.3	9.8	9.8	9.8	9.8	-	-	-	2.4	-
	200~300万円未満 <n=27>	88.9	11.1	3.7	25.9	14.8	3.7	3.7	-	-	-	-
	300~500万円未満 <n=25>	88.0	12.0	8.0	8.0	8.0	16.0	4.0	-	-	-	-
	500~1000万円未満 <n=31>	83.9	19.4	19.4	19.4	3.2	9.7	9.7	-	3.2	-	3.2
	1000万円以上 <n=40>	82.5	50.0	42.5	12.5	30.0	22.5	10.0	7.5	2.5	-	-

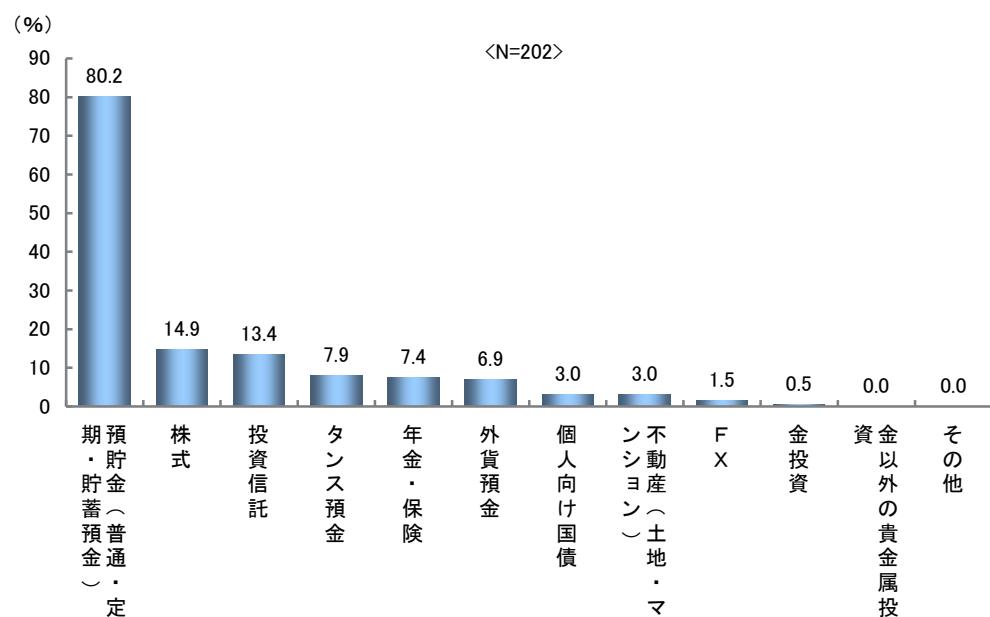
現在、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか、すなわち“へそくりの隠し場所”を聞いてみたところ、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」(87.1%)が圧倒的に多くなっています。そのほかでは、「株式」(18.8%)、「投資信託」(15.8%)、「年金・保険」(11.9%)、「外貨預金」(10.4%)といった金融商品のほか、伝統的な保有形式とも言えそうな、「タンス預金」(14.9%)という人も少なくありません。

- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、年代が上の人ほど「株式」「投資信託」「年金・保険」などの割合が高い傾向が強くみられます。また、「タンス預金」は《40代》(26.7%)で特に高くなっています。
- ・夫に内緒の資産額別にみると、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多い点に変わりはありませんが、内緒の資産額が多いほど「株式」「投資信託」などが多くなっています。特に「株式」は《1,000万円以上》(50.0%)では半数に達しています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても大きく動いた項目はありませんが、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（91.9%→87.1%）が若干減り、「株式」（13.4%→18.8%）、「外貨預金」（5.7%→10.4%）などが若干増えています。

図 22. 今後、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有したいか（回答は2つまで）



妻の年代	20代 <n=39>	87.2	5.1	10.3	10.3	5.1	2.6	2.6	-	-	-	-
	30代 <n=56>	87.5	14.3	7.1	3.6	3.6	7.1	1.8	1.8	3.6	-	-
	40代 <n=45>	77.8	15.6	8.9	8.9	11.1	4.4	-	4.4	-	-	-
	50代 <n=62>	71.0	21.0	24.2	9.7	9.7	11.3	6.5	3.2	1.6	1.6	-
	100万円未満 <n=38>	97.4	7.9	7.9	7.9	-	-	-	-	-	-	-
内緒の資産	100～200万円未満 <n=41>	78.0	7.3	12.2	4.9	7.3	9.8	2.4	2.4	4.9	-	-
	200～300万円未満 <n=27>	88.9	11.1	3.7	18.5	11.1	7.4	-	-	3.7	-	-
	300～500万円未満 <n=25>	76.0	20.0	12.0	8.0	4.0	8.0	4.0	-	-	4.0	-
	500～1000万円未満 <n=31>	83.9	9.7	16.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	-	-	-
	1000万円以上 <n=40>	60.0	32.5	25.0	7.5	17.5	12.5	7.5	10.0	-	-	-

次に、今後は『夫に内緒の資産』をどのような形で保有したいか聞いてみたところ、現在と同様「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（80.2%）が圧倒的に多くなっています。そのほかでは「株式」（14.9%）、「投資信託」（13.4%）、「タンス預金」（7.9%）、「年金・保険」（7.4%）などがあげられています。

- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、《20代》（87.2%）、《30代》（87.5%）の若い年代に比べ、《40代》（77.8%）、《50代》（71.0%）では低めです。一方、「株式」は年齢が上がるほど高い割合で、《20代》（5.1%）ではほとんどみられないのに対し、《50代》では2割強（21.0%）を占めています。
- ・夫に内緒の資産額別にみても、やはりいずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、その割合は資産が少ないほど高い傾向がみられます。一方、「株式」「投資信託」などは内緒の資産が多い人ほど多くなっています。

- ・なお、現在の保有形態別にみると、現在「預貯金」で保有している 176 名のうち、今後も「預貯金」という人が約 9 割 (89.2%) みられます。やはり“安心・安全”にへそくりを保有する方法は預貯金が第一と考えている人が多いようです。そのほか、現在「株式」(38 名中 63.2%)、「タンス預金」(30 名中 46.7%)、「投資信託」(32 名中 56.3%) で保有している方の半数前後の人々が、同様の形で今後も保有したいと考えているようです。

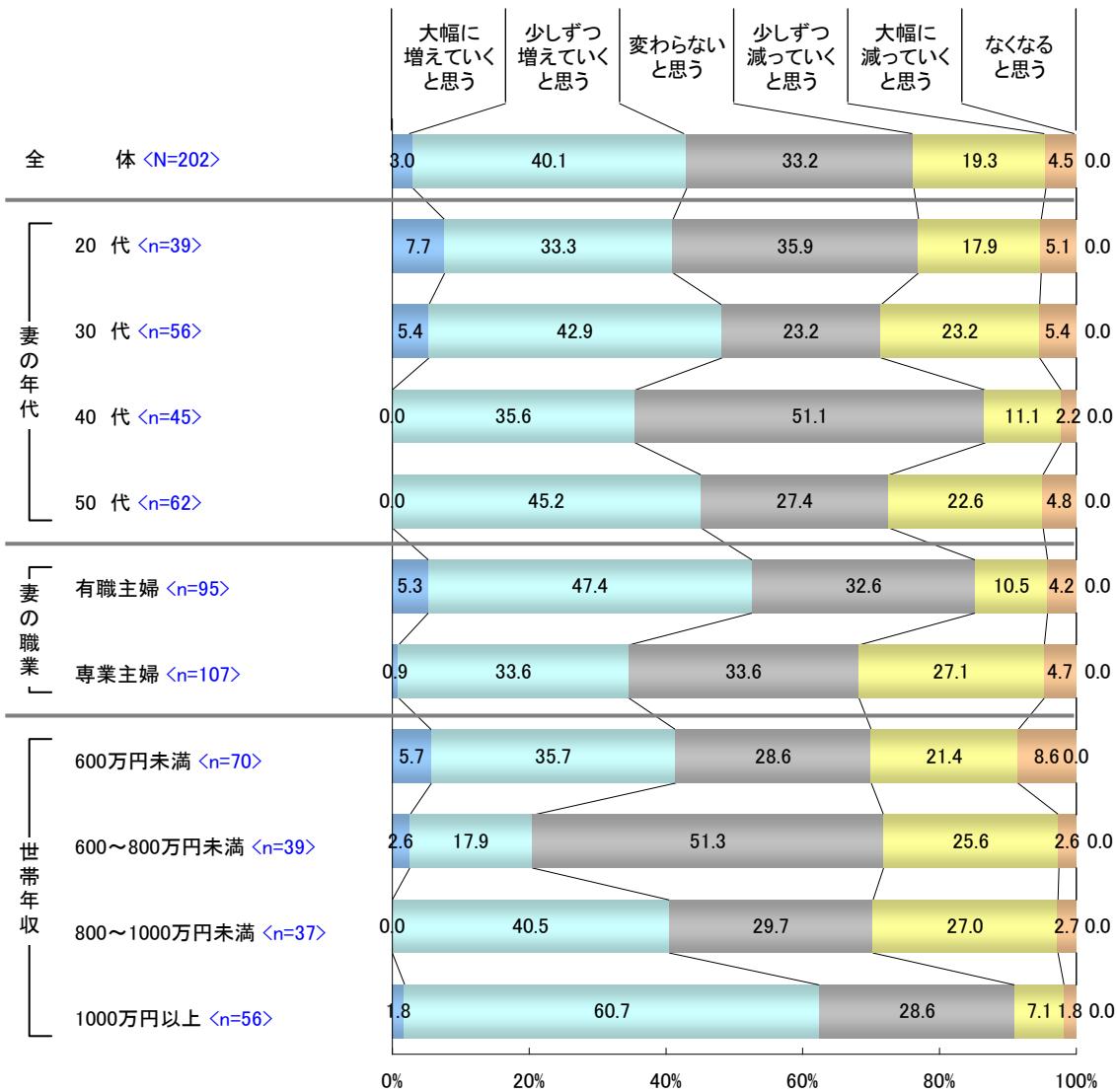
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べてみると、あまり大きな動きはありませんが、「預貯金(普通・定期・貯蓄預金)」(87.6%→80.2%) と安全な保有形態がやや減り、「株式」(8.1%→14.9%)、「投資信託」(9.6%→13.4%) などがやや増えています。

7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し

『夫に内緒の資産』の今後の見通しは、4割強が“増えていく”(43.1%)とみており、昨夏(38.7%)よりもやや増えている。“減っていく+なくなる”は2割強(23.8%)で、昨夏(23.9%)と変わらない。

図 23. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している人に、今後の資産増減の見通しについて聞いてみたところ、「大幅に増えていくと思う」(3.0%)、「少しづつ増えていくと思う」(40.1%)など“増えていくと思う”(43.1%)という人が4割強を占め、「少しづつ減っていくと思う」(19.3%)、「大幅に減っていくと思う」(4.5%)、「なくなると思う」(0.0%)など“減っていく+なくなると思う”(23.8%)という人は2割程度にとどまっています。

これまでにみてきた結果と合わせて考察してみると、家計は“楽である”(49.2%)と“苦しい”(50.8%)がほぼ同率、今後の家計の見通しは“楽になっていく”(18.6%)より“厳しくなっていく”(35.0%)との見方が強いという結果でしたが、『夫に内緒の資産』はむしろ楽観的にみている人が多くなっています。むしろ厳しい家計状況だからこそ、『夫に内緒の資産』を充実していくという意識が強いのかも知れません。

- ・妻の年代別にみると、“増えていくと思う”割合は《40代》(35.6%)が低めです。

- ・妻の職業別にみると、“増えていくと思う”割合は《専業主婦》(34.6%) では3割台なのに対し、《有職主婦》(52.6%) では半数を超えており、自分が働いていることは『夫に内緒の資産』を増やす上で大きなメリットとなっているようです。
- ・世帯年収別にみると、“増えていくと思う”割合は《600～800万円未満》(20.5%) で最も低く、《1,000万円以上》(62.5%) の人との差が目立ちます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果との比較をみると、“増えていくと思う”(38.7%→43.1%) という割合がやや増えており、楽観的な見通しが強くなっています。“減っていく+なくなると思う”(23.9%→23.8%) の割合は昨夏とほとんど変わりません。

表 11. 『夫に内緒の資産』の見通しの理由（自由回答：件）

<増えていくと思う理由>		<減っていくと思う理由>		<変わらないと思う理由>	
順位		順位		順位	
1	継続して貯めているため	24	1	使う機会が増えているから	16
2	働き始めたから・まだ働くつもりだから	14	2	生活費に充てているため	8
3	収入が増えたから	8	3	子供の教育費などに回すから	7
4	株・投資など運用しているから	7	4	夫の定年退職が近いため	6
	増やしたいという気持ちがあるから	7	5	自分が仕事を辞めたから・働いていないから	5
6	ローンが終わるから・支出が減るから	4			
7	生活費などを節約しているから	3			

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を具体的に聞いてみました。

“増えていくと思う”と答えた人の理由は、「継続して貯めているため」(24件) が最も多く、以下「働き始めたから・まだ働くつもりだから」(14件)、「収入が増えたから」(8件)、「株・投資など運用しているから」(7件)、「増やしたいという気持ちがあるから」(7件) などの順となっています。

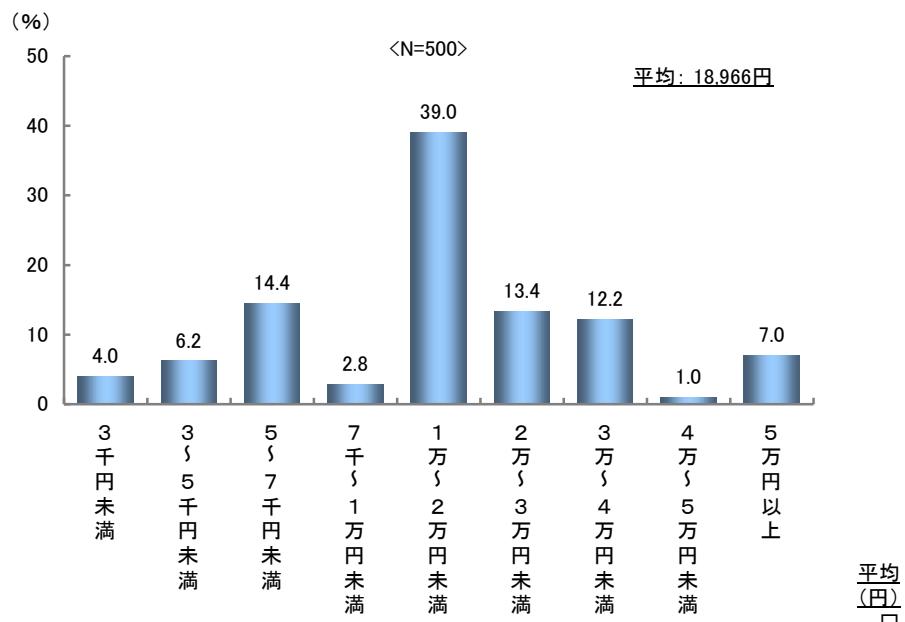
“減っていくと思う”理由としては、「使う機会が増えているから」(16件)、「生活費に充てているため」(8件)、「子供の教育費などに回すから」(7件)、「夫の定年退職が近いため」(6件) などがあげられています。

“変わらないと思う”理由は、「収入の増減の予定がないため」(14件)、「増やす気がないから・手を付けないつもりだから」(14件)、「増やす余裕がないから」(12件) などの順です。

1. 財布にふだん現金をいくらぐらい入れているか

「1万～2万円未満」(39.0%)が最も多いが、以下「5～7千円未満」(14.4%)、「2万～3万円未満」(13.4%)、「3万～4万円未満」(12.2%)、「5万円以上」(7.0%)など人による差が大きい。平均は「18,966 円」。

図 24. 財布にふだん現金をいくらぐらい入れているか



妻の年代	<N=500>										
	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>	有職主婦 <n=237>	専業主婦 <n=263>	600万円未満 <n=192>	600～800万円未満 <n=108>	800～1000万円未満 <n=80>	1000万円以上 <n=120>	
20代 <n=125>	6.4	6.4	10.4	0.8	34.4	16.0	20.0	0.8	4.8	17,792	
30代 <n=125>	6.4	8.8	16.0	3.2	40.0	12.8	7.2	—	5.6	15,920	
40代 <n=125>	1.6	7.2	17.6	4.0	37.6	12.0	10.4	1.6	8.0	19,592	
50代 <n=125>	1.6	2.4	13.6	3.2	44.0	12.8	11.2	1.6	9.6	22,560	
妻の職業	有職主婦 <n=237>	3.4	5.9	13.9	2.5	36.3	15.2	14.8	0.8	7.2	21,397
専業主婦 <n=263>	4.6	6.5	14.8	3.0	41.4	11.8	9.9	1.1	6.8	16,776	
世帯年収	600万円未満 <n=192>	8.9	8.3	17.7	1.6	43.2	12.0	5.7	—	2.6	12,292
	600～800万円未満 <n=108>	1.9	8.3	11.1	2.8	41.7	10.2	17.6	0.9	5.6	17,148
	800～1000万円未満 <n=80>	—	2.5	13.8	5.0	42.5	17.5	11.3	2.5	5.0	17,963
	1000万円以上 <n=120>	0.8	3.3	12.5	3.3	27.5	15.8	18.3	1.7	16.7	31,950

主婦は、財布にふだん現金をいくらぐらい入れているでしょうか。

「1万～2万円未満」がほぼ4割(39.0%)を占めて最も多く、以下「5～7千円未満」(14.4%)、「2万～3万円未満」(13.4%)、「3万～4万円未満」(12.2%)、「5万円以上」(7.0%)などの順となっており、人による差はかなり大きいようです。平均は「18,966 円」ですが、今回の調査の最高金額は「30万円」です。

- 妻の年代別にみると、平均額は年代が上がるほど高い傾向があり、《30代》では「15,920 円」ですが、《50代》(22,560 円)ではそれより6千円以上多くなっています。

- 妻の職業別にみると、平均は《有職主婦》(21,397 円)の方が《専業主婦》(16,776 円)よりも4千円以上多く入れています。

- ・世帯年収別にみると、平均額は年収が上がるほど高く、《600万円未満》の人の「12,292円」に対し、《1,000万円以上》(31,950円)の人では2倍以上の金額となっています。

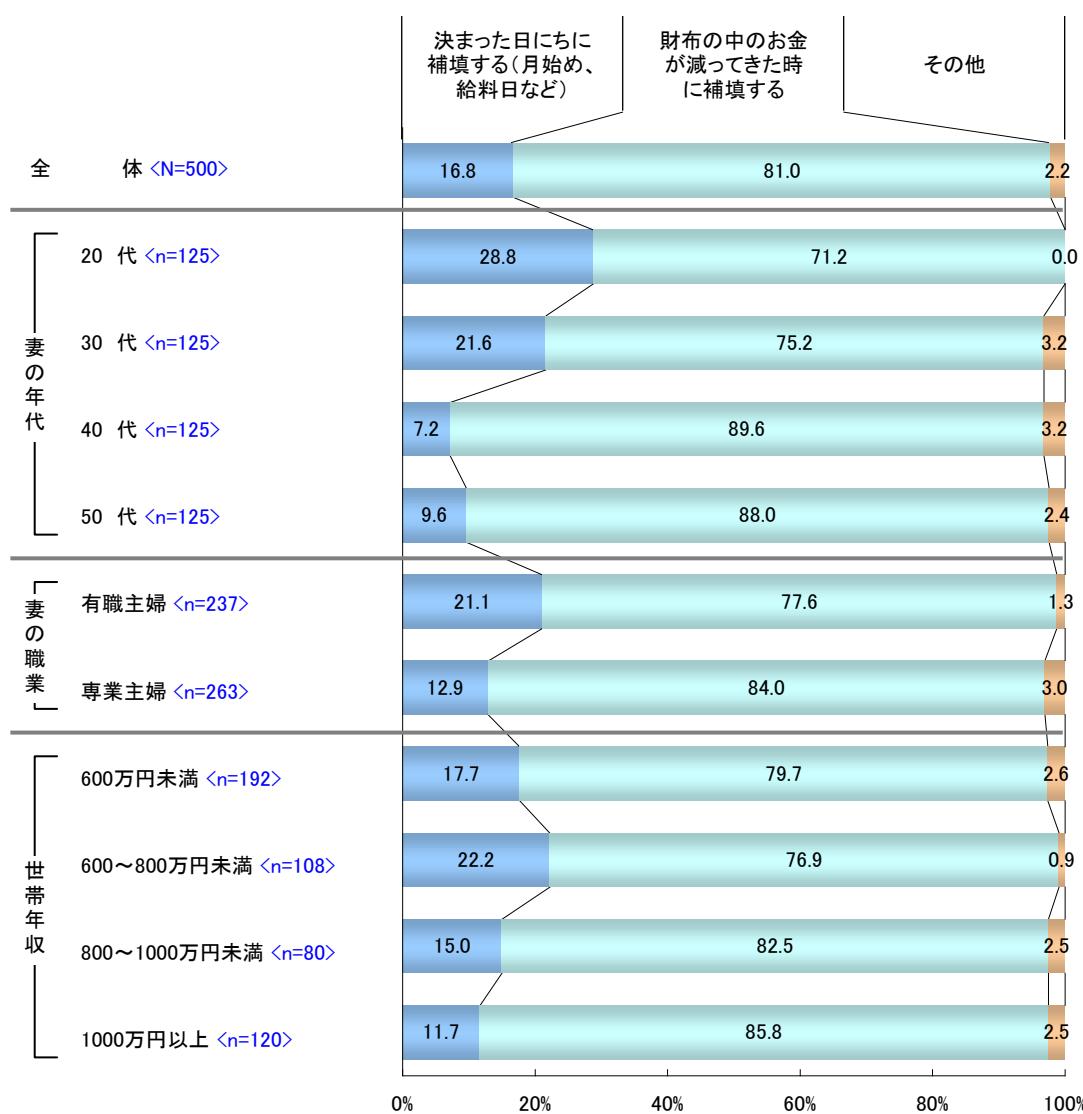
2. 財布にお金を補填する時はどんな時か

「財布の中のお金が減ってきた時に補填する」(81.0%)が多く、そのほか「決まった日にちに補填する(月始め、給料日など)」(16.8%)という人も。

◆補填するのはいくらぐらいまで減った時かをみると、「2千円未満」(21.7%)、「5~7千円未満」(18.5%)、「3~4千円未満」(17.5%)、「2~3千円未満」(17.3%)、「1万~2万円未満」(14.3%)など人によるバラつきが大きく、平均「6,207円」。

——ふだん2万円入れており、6千円になると補填するのが平均的。最高金額は、ふだん「30万円」入れていて、「15万円」になると補填するという人。

図 25. 財布にお金を補填する時はどんな時か



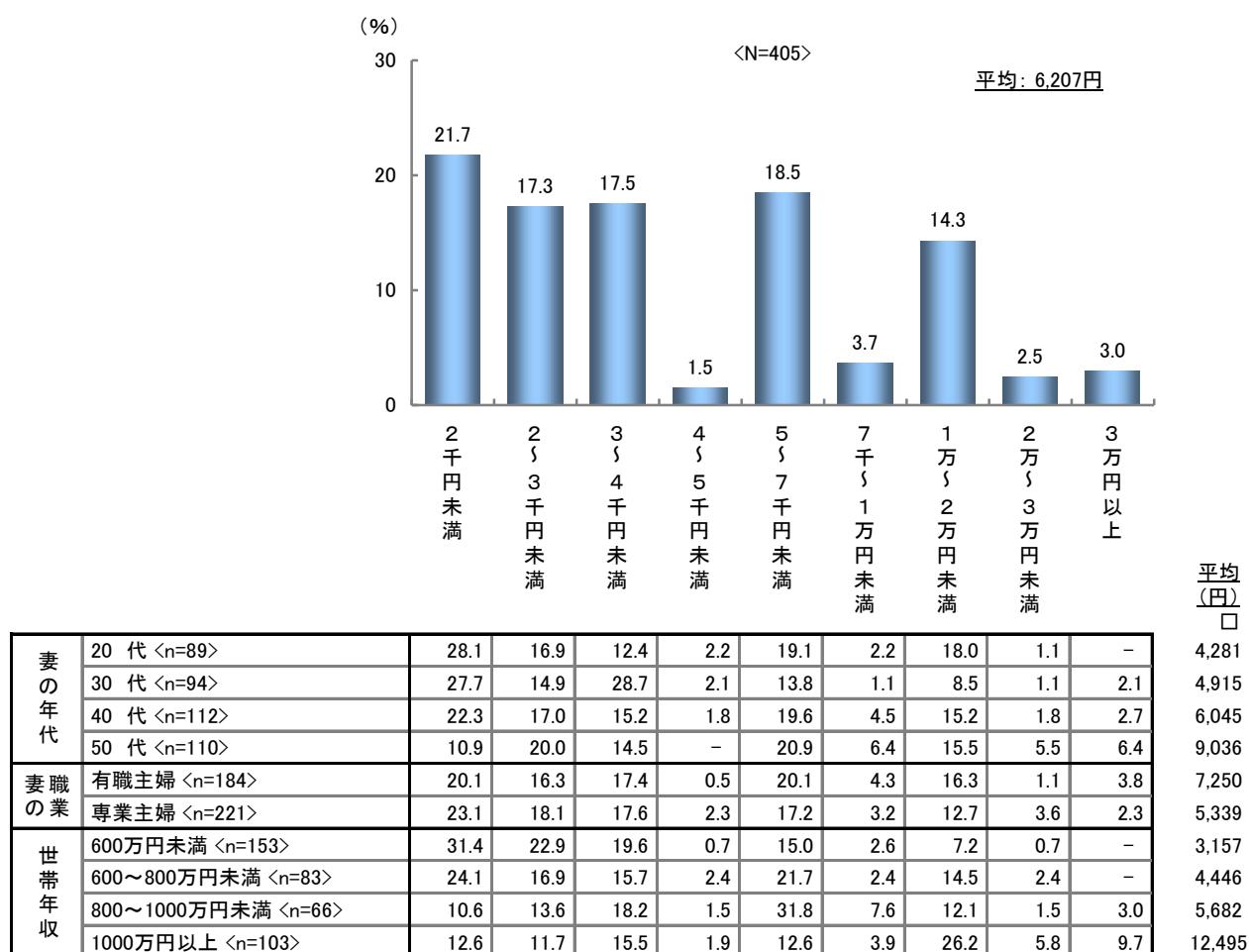
財布にお金を補填する時はどんな時か聞いてみたところ、「財布の中のお金が減ってきた時に補填する」(81.0%)が8割を超え、圧倒的に多くなっています。そのほか、「決まった日にちに補填する(月始め、給料日など)」(16.8%)という人もみられます。また、「その他」(2.2%)の内容としては、“病院へ行く時”、“使う用事がある時”、“必要な時になったら”など、まとめたお金を使う時という回答が多くなっています。

・妻の年代別にみると、いずれの年代でも「財布の中のお金が減ってきた時に補填する」が主になっていますが、《20代》(71.2%)、《30代》(75.2%)は《40代》(89.6%)、《50代》(88.0%)に比べて低い割合で、「決まった日にちに補填する（月始め、給料日など）」《20代》(28.8%)、《30代》(21.6%)が2割台を占めているのが目立ちます。

・妻の職業別にみると、やはりいずれも「財布の中のお金が減ってきた時に補填する」が多くなっていますが、《有職主婦》(77.6%)よりも《専業主婦》(84.0%)の方がやや高い割合です。

・世帯年収別にみると、やはりいずれも「財布の中のお金が減ってきた時に補填する」が多数を占めていますが、世帯年収が高い人ほど少しづつ高い割合となっています。年収が少ない人ほど計画的に、年収が多い人ほどその場の都合で補填することが多くなるようです。

図 26. 補填するのはいくらぐらいまで減った時か



「財布の中のお金が減ってきた時に補填する」と答えた人に、補填するのはいくらぐらいまで減った時かを聞いてみました。

「2千円未満」(21.7%)が最も多くの、以下「5~7千円未満」(18.5%)、「3~4千円未満」(17.5%)、「2~3千円未満」(17.3%)、「1万~2万円未満」(14.3%)など人によるバラつきが大きく、中には「3万円以上」(3.0%)という人もいます。平均は「6,207円」となっています。なお、今回の調査における最高金額は「15万円」で、先述の“ふだん入れている金額”の最高金額「30万円」と同じ人でした。

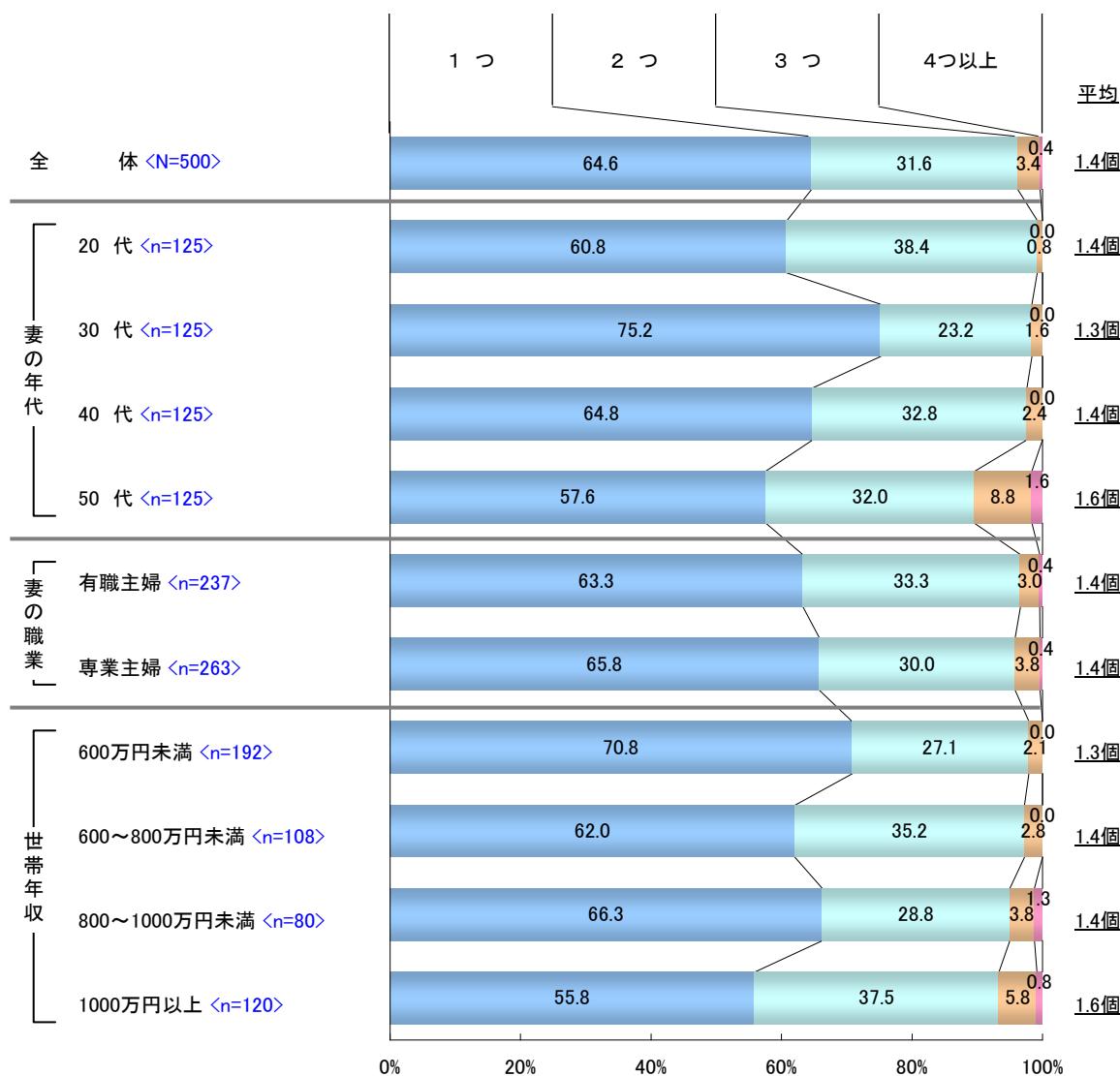
- ・妻の年代別にみると、平均は年齢が上がるほど高く、《20代》(4,281円)、《30代》(4,915円)では4千円台ですが、《40代》(6,045円)では6千円台、《50代》(9,036円)では9千円を超える、《20代》の2倍以上の金額に達しています。
- ・妻の職業別にみると、平均は《有職主婦》(7,250円)の方が《専業主婦》(5,339円)を2千円近く上回っています。
- ・世帯年収別にみると、年収が多いほど金額も高く、特に《1,000万円以上》(12,495円)では1万円を超えているのが目立ちます。最も低い《600万円未満》(3,157円)では3千円程度です。

3. 現在、現金の入った財布（小銭入れを含む）をいくつ持っているか

「1つ」(64.6%)という人が主。そのほかでは「2つ」(31.6%)という人がほとんどだが、「3つ」(3.4%)、「4つ以上」(0.4%)という人も。最多個数は「8個」。

◆2つ以上のお財布をどのように使い分けているかをみると、「家計費と自分の小遣い用を分けている」(60 件)と、家計を預かる主婦らしい理由が最も多い。以下、「小銭入れを別に持っている」(43 件)、「持ち運び用と家での保存用を分けている」(15 件)、「普段の買い物用とお出かけ用・勤務用を分けている」(14 件)といった用途による使い分けられている。財布の個数の多い人では、「食材代、医療費、交際費、散髪代、ガソリン代、子供費などで分けている」(8個)、「普段の家計用、クレジット払い用、自分の小遣い用、プチ貯金用、外貨用で分けている」(5個)とかなり詳細に使い分けている。

図 27. 現在持っている現金の入った財布（小銭入れを含む）の数



現在、現金の入った財布（小銭入れを含む）をいくつ持っているかをみると、「1つ」(64.6%)が6割を超えており、小銭入れ等と分けず、1つの財布だけを持ち歩く人が多くなっています。そのほかでは「2つ」(31.6%)という人がほとんどですが、「3つ」(3.4%)、「4つ以上」(0.4%)という人も少数ながらみられます。平均は「1.4個」となっています。なお、今回の調査の最多個数は「8個」です。

表 12. 2つ以上のお財布をどのように使い分けているか（自由回答：件）

順位		件数
1	家計費と自分の小遣い用を分けている	60
2	小銭入れを別に持っている	43
3	持ち運び用と家の保存用を分けている	15
4	普段の買い物用とお出かけ用・勤務用を分けている	14
5	一日に使って良い金額だけを入れて持ち歩いている	3
	バッグの大きさで使い分けている	3
	その他	40

財布の数を“2つ以上”と答えた人（177名）に、2つ以上のお財布をどのように使い分けているかを自由回答で聞いた結果をみると、「家計費と自分の小遣い用を分けている」（60件）と、家計を預かる主婦らしい理由が最も多くなっています。そのほかでは、「小銭入れを別に持っている」（43件）、「持ち運び用と家の保存用を分けている」（15件）、「普段の買い物用とお出かけ用・勤務用を分けている」（14件）といった用途による使い分けがされていますが、「一日に使って良い金額だけを入れて持ち歩いている」（3件）、「バッグの大きさで使い分けている」（3件）といった理由も注目されます。

また、「その他」の具体的な内容としては、以下のようなものがみられます（カッコ内は財布の数）。

- ・外貨を別に分けている（2個）
- ・気分で使い分けている（2個）
- ・生活費と医療費で分けている（2個）
- ・生活費用と旅行費用で分けている（2個）
- ・普段使う分と、カード払いに充てる分で分けている（2個）

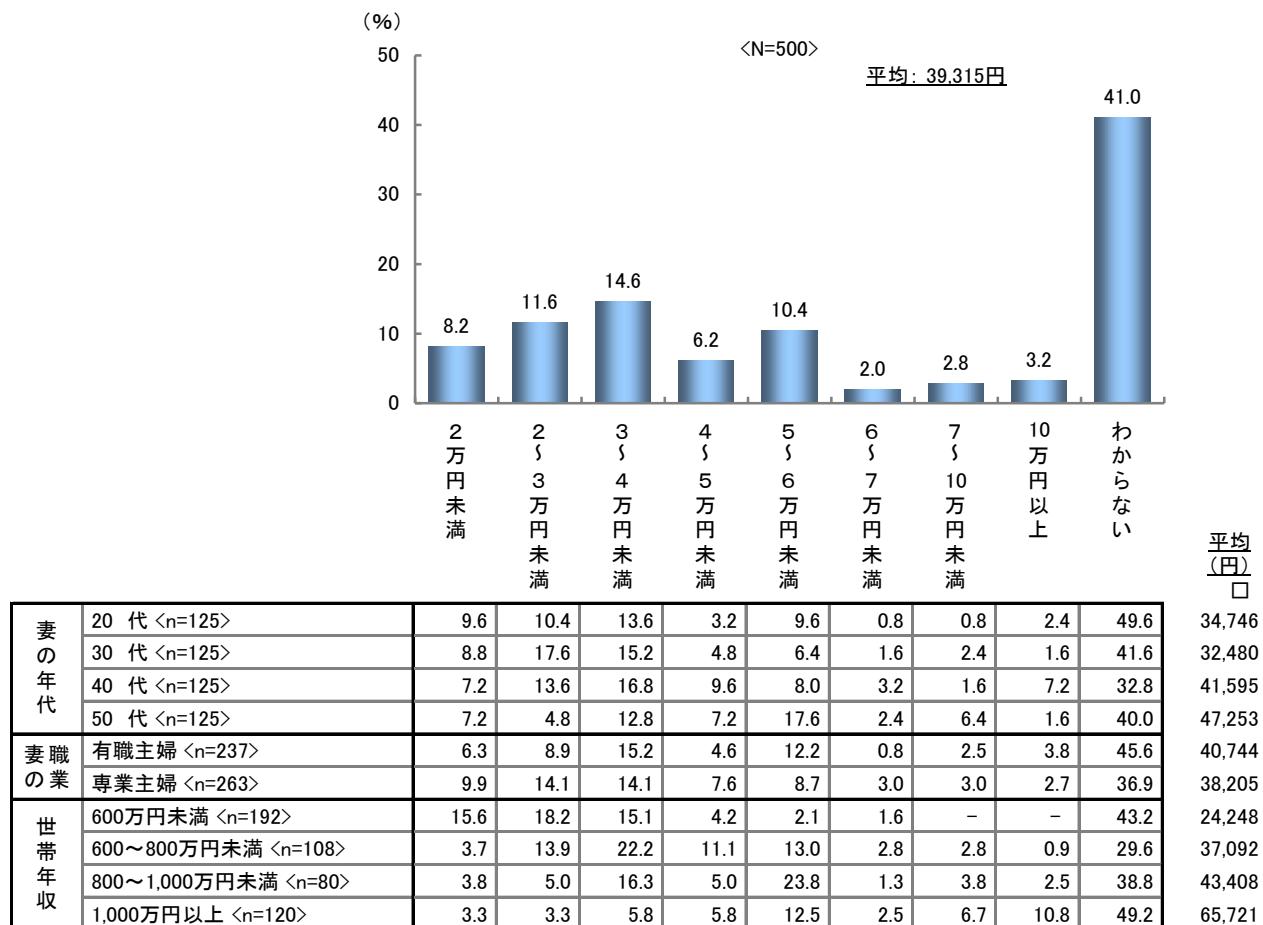
また、「4個以上」と回答した人の使い分けの内容は以下の通りで、かなり詳細に使い分けているようです。

- ・食材代、医療費、交際費、散髪代、ガソリン代、子供費などで分けている（8個）
- ・普段の家計用、クレジット払い用、自分の小遣い用、プチ貯金用、外貨用で分けている（5個）

4. 現在、夫の小遣いは月いくらぐらいか

「わからない」(41.0%)を除けば、「3~4万円未満」(14.6%)、「2~3万円未満」(11.6%)、「5~6万円未満」(10.4%)などが多いが、人による差は大きく、平均は「39,315 円」。最高金額は「33 万 3 千円」。

図 28. 現在、夫の小遣いは月いくらぐらいか



現在、夫の小遣いは月いくらぐらいかをみると、「わからない」という人が4割強(41.0%)を占めています。夫が自分で管理しているといった事情があるのでしょう。具体的な金額をあげている人では、「3~4万円未満」(14.6%)、「2~3万円未満」(11.6%)、「5~6万円未満」(10.4%)、「2万円未満」(8.2%)などの順ですが、少數ながら「10万円以上」(3.2%)という人もいて、人による差は大きいようです。平均は「39,315円」です。なお、今回の調査における最高金額は、「33万3千円」です。

- ・妻の年代別にみると、年代が上がるほど夫の小遣いも多く、平均は《20代》(34,746円)、《30代》(32,480円)では3万円台ですが、《40代》(41,595円)では4万円を超え、《50代》(47,253円)では5万円に近い金額になります。また、「わからない」という割合は、《20代》(49.6%)で半数近くに達しており、若い人ほど夫の小遣いを把握していないようです。
- ・妻の職業別にみると、平均は《有職主婦》(40,744円)の方が《専業主婦》(38,205円)よりもやや高めです。また、「わからない」の割合は、《有職主婦》(45.6%)の方が《専業主婦》(36.9%)よりも10ポイント近く高くなっています。《有職主婦》の場合は、お互いの小遣いを把握していないケースが多いのかも知れません。

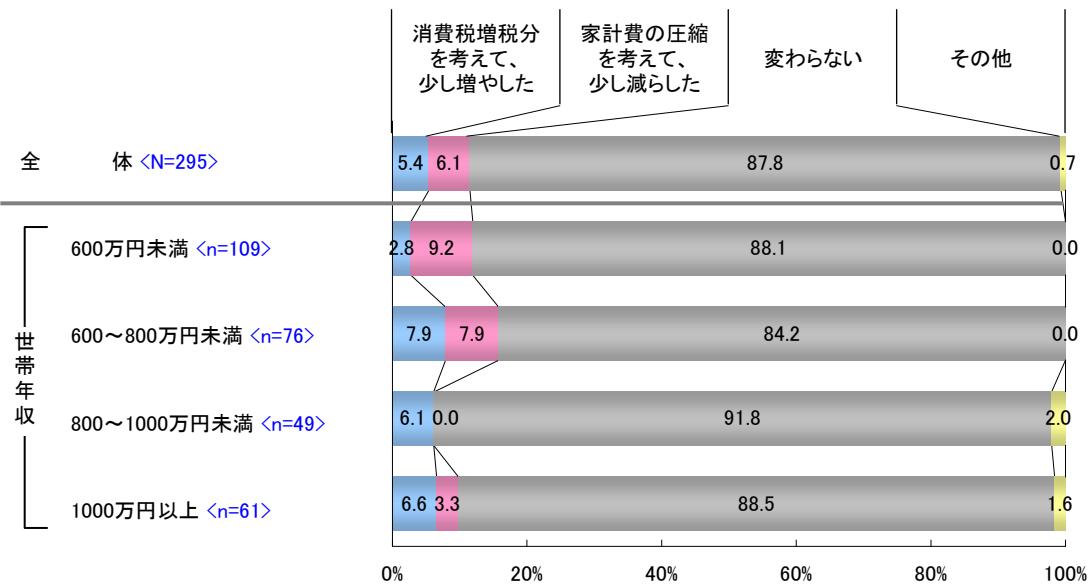
- ・世帯年収別にみると、やはり年収が高いほど夫の小遣いも多く、平均は《600万円未満》(24,248円)の2万台に対し、《1,000万円以上》(65,721円)では6万台と大きな開きがあります。また、「わからない」の割合は、《1,000万円以上》(49.2%)で最も高くなっています。

5. 4月（消費税増税）以降、夫の小遣いに変化はあったか

「変わらない」(87.8%)が大多数を占めるが、そのほかでは、「家計費の圧縮を考えて、少し減らした」(6.1%)、「消費税増税分を考えて、少し増やした」(5.4%)の両方のケースがある。

◆「減らした」場合の夫の小遣いは平均「22,667 円」、「増やした」場合は「58,438 円」と、明暗が分かれる。

図 29. 4月（消費税増税）以降、夫の小遣いに変化はあったか



4月に消費税が5%から8%に増税されましたが、それ以降、夫の小遣いに変化はあったでしょうか。

「変わらない」(87.8%)が9割近くと大多数を占めています。そのほかでは、「家計費の圧縮を考えて、少し減らした」(6.1%)、「消費税増税分を考えて、少し増やした」(5.4%)がともにみられ、“支出が増えるから減らした”という考え方と“物価が上がるから増やした”という両方の考え方があるようです。

- 世帯年収別にみると、いずれも「変わらない」が多数を占めている点に変わりはありませんが、「家計費の圧縮を考えて、少し減らした」の割合は《600万円未満》(9.2%)、《600～800万円未満》(7.9%)の年収が低い層で高めです。

表 13. 現在、夫の小遣いは月いくらぐらいか（4月（消費税増税）以降の夫の小遣いの変化別） (%)

	サンプル数	2万円未満	2~3万円未満	3~4万円未満	4~5万円未満	5~6万円未満	6~7万円未満	7~10万円未満	10万円以上	平均(円)
全 体	295	13.9	19.7	24.7	10.5	17.6	3.4	4.7	5.4	39,315
変 化	消費税増税分を考えて、少し増やした	16	—	6.3	31.3	—	18.8	6.3	25.0	12.5
	家計費の圧縮を考えて、少し減らした	18	22.2	44.4	33.3	—	—	—	—	58,438
	変わらない	259	14.3	18.5	23.9	12.0	18.9	3.5	3.9	39,131

なお、夫の小遣いの変化別に、夫の月当たりの小遣いをみてみると、平均は《消費税増税分を考えて、少し増やした》(58,438 円)という人では6万に近いのに対し、《家計費の圧縮を考えて、少し減らした》(22,667 円)という人では2万円程度にとどまっており、明暗が分かれる結果となっています。